文化村の建設

特218
492

山下信義著

第3輯

新興生活叢書

始

特2/18
492

新興生活叢書・第三輯

農村文化の建設

山下信義 著

財團法人 佐藤新興生活館版

目次

第一章　農村問題の再認識……（一）
第二章　我國農村の憂ふべき現狀……（八）
第三章　我國農業の特質……（一六）
第四章　來るべき新興農村……（三）
第五章　新興農村人……（二九）
第六章　新興農家の經營方針……（三八）
第七章　新興農村の經營方針……（四五）

第八章　協同化と生活組合……（六一）
第九章　新地主論……（七三）
附　記……（九一）
（附錄）　農村文化の建設座談會……（八三）

第一章　農村問題の再認識

經濟生活の變遷

有史以來、人類の經濟生活は、長い歷史と幾多の變遷を經て現在に至つてをります。それ故、農村問題の認識を徹底させるためには、先づ經濟生活の變遷と農業との關係を、明らかにする必要があります。一般に生產狀態と、富の種類を標準として、經濟生活は次の如く分類されます。

(1)　狩獵漁撈狀態

自然の賜物を富と考へ、狩をしたり魚をとつたりして、本能的に生活した時代。

(2)　遊牧狀態

人間が進んで動物を養育し、又それを富とした時代。しかもこの間に最初遊牧して轉々

と移動してゐたのが、やがて定住して家畜を飼育するに至る。

(3) 農耕狀態

一定の土地に住むやうになると、土地を耕し、農業が初まり、土地から穫られる産物が富となつて、經濟生活の中で農業が一番重要視される時代。

(4) 農工商狀態

農業が發達すると、それにつれて工業が起り、農工業生産物が富と考へられるやうになる。と同時に工業生産物を交換する商業が起つて、經濟生活は農工商となるが、その中心をなすのは工商である時代。

人類の經濟生活は、以上の如き段階を經て、發達して來たのであります。但し我國では遊牧時代は無く、狩獵漁撈に次いで、直ちに農耕時代が出現してをります。が、何れにもせよ現在の私達は、農耕時代から更に進んだ農工商時代に、經濟生活を營んでゐるのであります。

現代の農業政策

前述の如く、現代は農工商時代と言ふものゝ、工商が中心となり、やゝもすれば農業が等閑視されがちであります。從つて農業政策も、比較的從屬的に考へられて來ました。德川時代は「米遣ひの經濟」と言つて、農業を重要視し、又士農工商と稱して、農民を尊重してをりました。それが明治維新後、急激に都會の商工業が發達した結果、爲政者ははなやかな都會の産業に眩惑されて、農業を段々と省みなくなつたのです。農業立國から商工立國へと、政策の中心が移つたのもこれがためであります。

甚だしきにいたつては、農業は亡び行く運命に在る、だからそんなものに金を費したり保護を加へる必要はない、などと言ふ暴論さへも稱へられたのであります。

このやうな農業政策、農村對策は、しからば何に原因するかと言へば、それは物質文明の弊害である、金錢至上營利第一主義からであります。このことに就いては、後で詳しく述べることにしますが、金儲けといふ點から見ると、農業はどうしても商工業には勝てません。産業の一部門

としては、又私經濟的見地からしては、農業はどうしても引合ひません。だから有望でない産業には爲政者も消極的態度をとる、これがいままでの誤れる農業政策なのであります。

農業——農村の重要性

ところが都會偏重の政策は、やがて行き詰つてしまひました。と言ふのは、商工業が發展しつゝある間はよかつたが、今や都會の産業も行き詰り、その救濟を農業に求めねばならなくなつたからであります。

それに加へ、永年の農村の困窮が、近年の不景氣と天災とにより、漸く世人の注目するところとなつて、農業問題が新しく社會問題として、認識されるやうになりました。換言すれば、農業が營利第一主義からでなく、國民經濟的見地から重要視されるやうになつて來ました。一部分として考へられずに、人間の經濟生活全體から、農村問題が論ぜられるやうになりました。こゝに農業問題の重要性が存するのであります。

第一に、人類の食物の供給は農業であります。如何に都會の繁榮を誇らうとも、農業・農村無

くして人間は存在し得ません。人間生活の衣食住の内、最も大切な食が、農業によつて保證されてゐるからであります。

第二に、國民の約半數が農業によつて、生計を立てゝゐる事であります。これこそ農業——農村の興廢が、國民の運命にかゝつてゐる所以であります。

第三は、國家の中堅たる青少年並びに壯丁の大半が、健康な農村人から求められることであります。と同時に、農村は都會の敗殘者を、豐かな自然に抱擁する處でもあります。商工業が行き詰つて生じた多くの失業者は、歸農者として農村で救はれてゐる有樣であります。

一時「救農土木事業」など言ふ言葉がはやりましたが、あの言葉は、本當の農民には實に不愉快に聞えたものです。なぜならば、農民をルンペン、乞食、立ン坊の同類項と見て、實に憐れだ、不憫だ、可愛そうだ、救つてやれといふ心持から出て來た言葉だからであります。

「農村救濟」にしても同じ心持からの言葉であり、何處かそこらの貧民窟なみに農、山、漁村を厄介視して居る響きが聞えます。貧民窟をそのまゝ放つて置くと、そこからコソドロやカツパライが躍出する、傳染病が醸成される、どうも放つては置けない、救濟の道を講ぜずには居られな

いと同様の心持であります。

農業又農村問題の重要性が、充分によく認識されて居るならば、「救農土木事業」、「農村救濟」など言ふ代りに「農業保存」「農村擁護」とでも言ふべきであります。史蹟保存、憲政擁護など言ふと同じ心持で。

けれども私共は、他をかれこれ言はなくてもよろしい、自ら蔑つて而して後人之を蔑るです。よろしく農業者自らが、農村民自らが、農業と農村の重要性を充分によく認識し、「我らは、他から救はるべき側のものではなくして、他を救ふべき側のものである」と言ふことを固く任じて起たねばなりません。

要之、商工業の從屬として農村問題を取扱ふこと、又は引き合ふ引き合はないと言ふ營利的經濟的觀點から論ずることをやめ、農業——農村に依つてのみ、人類は救はれるのである、農存する處人類存し、農亡ぶる處國家亡ぶ、と言ふ國民經濟的大乘的見地から、農村問題の認識を深める必要があります。

新興農村

前述の如く、農村問題が狹い意味でなく、廣く人類生活の立場から考へられねばならない以上、農村問題は當然私達が提唱してゐる「新興生活運動」と、密接な關係を有するのであります。否一心同體と言へるのであります。

新興生活運動とは、人々をその誤れる肉的存在、物質生活、金錢至上、營利第一の人生觀から死別せしめて、靈的存在、精神生活、聖愛至上、奉仕第一の上層世界に更生せしむる運動であります。しからばこの新興生活運動が、農村に於て如何に具體化さるべきか、これが新興農村運動の本旨であります。農村生活の建直し、農村文化の建設、それを通じて人類の生活を新興させることこそ、私達の、又本書の使命であります。

おそれおほくも御神勅に『豐葦原の瑞穗の國』とおほせられてゐるのは、農は國の基と云ふ萬古不易の眞理を敎へ給ひしものと拜察いたします。キリストが『我が父は農夫なり』と述べてゐることは、農業が人類にとつて、如何に重要であるかを物語つてをります。私達は農村問題を考

へるに當つて、この「農は國の基」、即ち「土は母なり」と云ふ根本に立つて、その認識を徹底させたいと思ひます。

第二章　我が國農村の憂ふべき現狀

農村の行詰り

農村問題の認識を深め、正しい農村對策を樹立するためには、先づ冷靜に現實の農村の姿を見る必要があります。現在各方面から農村の行き詰りが叫ばれてゐますが、さてそれではどう云ふやうに行き詰つてゐるか、そのよつて來る原因は何であるか、については案外に無關心であります。たゞ單に困つてゐると言ふばかりでなく、如何なる狀態に實際あるかを正しく認識しない限り、決して眞の農村對策は樹立されません。この意味から、新興農村運動を論ずる一つの要件として、我國農村の現狀が如何に憂ふべき狀態にあるかを、觀察して見たいと思ひます。

農業恐慌と天災

今日、農村問題が重要視されるに至つた直接の原因は、一般恐慌——農業恐慌と、近時頻發せる天災とであります。

世界大戰時代の好景氣の反動として、日本全國を襲つた不景氣の波は、農村に最も著しい影響を及ぼし、農產物の價格、地價の下落に引きかへて、生活必需品價格の騰貴等によつて、農村は貧窮のドン底に落されました。

それに加へて、數度にわたる東北地方の凶作、冷害、水害によつて、愈々農村窮乏の速度を高めて、農村を救への聲が漸く輿論となつたのであります。

しかし注意すべきは、農村の窮乏が、決して農村恐慌と天災によつて起つたのではないことであります。農村經濟の行き詰りは、それ以前から在つたのです。それは都會の產業——商工業が勃興し初めた時から、徐々に生じて來たもので、農村恐慌や天災は、前から初まつてゐた農村の窮乏化を、たゞ强めたに過ぎません。若しも農業が、商工業の如くであつたら、災害に負けず、

何等かの形で、立ち直つてゐるでせう。ところが實際にその反對なのは何故でせうか。農業問題の重要性、特異性、困難性は、こゝに存するのであります。

この解決のために先づ、農業——農村經濟が如何なる程度に商工業、換言すれば都市經濟に對して、不利であるかを考察してみませう。

資本の力

人類の經濟生活が、農業を主とした時代は、自給自足をたてまへとしてゐました。處が商工業の發達した結果、安くて品質の良い工場製品が、段々と農村へ侵入して來ました。例へば農具類肥料、飼料、日用品等を買ふやうになり、又租稅も貨幣で支拂ふ必要から、農家ではどうしても現金が必要になりました。そこで勢ひ賣るための生產が初まりました。かくて自給自足經濟から交換經濟へ入つたのであります。こゝに農村困窮の一原因があります。

と言ふのは、農村が交換經濟に入つたとは云へ、都市經濟の樣に完全ではなく、やはり一部は自給自足經濟にをるからであります。つまり大資本をもつての、儲けんがための經營でなく、必

要品を買はんがための交換經濟化であります上に、農家經濟が孤立的なために、都會の大資本に對して、交換經濟を通じ非常に不利であります。

第一が賣買に於ける損失であります。今日の工業は、大資本の力で常に價格を上げやうとしてをります。更にその高い商品を、中間の商人が儲けるために、農家では常に購買者として損失を蒙ります。又農產物を賣る場合はこの反對に、都會の大資本によつて、最低價格で販賣せねばならず、その上中間商人にまで利益をとられます。賣るに安く、買ふに高いと言ふ價格の上で、農村經濟は絕えず、損失を蒙つてゐるのであります。例へば輸入硫安の神戸入荷價格は十貫匁二圓五十錢でありますのに、農家の手に渡る時は四圓三十五錢となり、一圓八十五錢が資本家に儲けられてゐる有樣です。

第二は、銀行から資金を借りる場合、都會より農村の方が遙かに利子が高いこと。

第三は、郵便貯金（總額の三五％が農民）等によつて、農村から資本がどし〳〵都會へ集中され、又地主の如きは皆都會の商工業に投資してゐる有樣であります。

かくの如く、農村經濟が交換經濟へ一部入りこんでゐるため、都會の大資本の壓迫をあらゆる

方面から受けなければなりません。

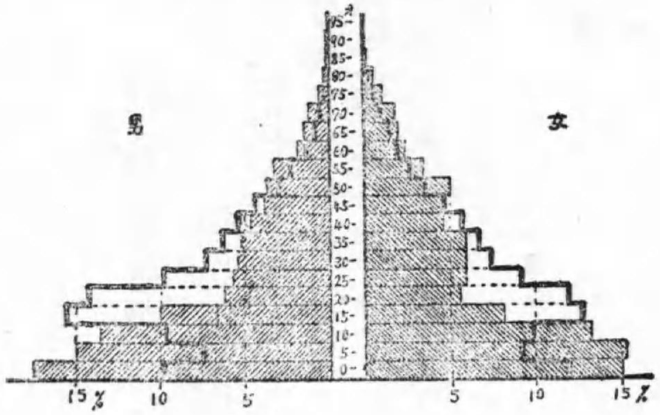
勞働力の低下

都會の商工業が盛んになると、農村で食へない人は、都會へ稼ぎに出て行きます。特に、工場勞働者の賃銀が、農業勞働者の賃銀より高いので、農村の所謂次三男と言ふ働き盛りの青年が、都會へ集中されます。又若い女子も都會へ都會へと出掛けます。娘の居らぬ村、青春の無い村と言はれる所以はこゝにあります。

かくて農村から働き盛りの男女——生産年齢人口——がなくなり、幼年者と老年者が多くなつてをります。左圖で明らかの如く農村は若者を都會に出しては、反對に生産的でない者を澤山養はねばならない點で、都會に比較して不利な立場にあります。

こうした事情と關聯して今日農村で一番困る問題は結婚難であります。今日農業者以外のものは、頗る割のいゝ結婚が出來るに反して、農業者は極めて割のわるい結婚しか出來ないのです。このことが更に有爲の青年男女を、農業又農村から奪ひ去る原因となるのであります。如何なる

年齢別人口構成圖
（百分比）



（註）渡邊秀俊「農村經濟の研究方法」に依る。
斜線…親園村（昭和六年）・太線…東京市（大正十四年）

産業でも人を得て榮え、人を失ふて衰ふるのであります。農業又農村にとつて一番憂慮に堪えないのは、かくして有爲の青年男女が、農業又農村から離れ行くことであります。

これに加へて農村では病人が非常に多いのです。昔から田舍の人は健康と言はれてゐましたが、近來では都會に劣らず病人が多く、特に消化器病の多い事は、農村の困窮を最も雄辯に物語つてをります。更に未だ醫者

の居らない村が、全國で三千百七十一箇村、產婆の居らぬ村が、二千八百五十四箇村であること から見ても、農村の憂ふべき現狀が、一層はつきりいたすではありませんか。

財政上の負擔と負債

農村窮乏化の重要な一原因は、農村に於ける租稅負擔問題であります。この問題は地方財政調整交付金をめぐつて、最近研究されるやうになりましたが、都會に比較して收入少き農家が如何に租稅の負擔過重に惱んでゐるか、次表を御覽下さい。（農業經濟學會編「日本農業の展望」二六三頁、久保田明光氏「農民負擔」より。）

又、新興生活館農村部の齋藤與一氏の調査によると、同一所得に對する農業者と商工業者との、負擔輕重比較は次の如くであります。

	三百圓程度	五百圓程度
販賣者	九、三八	八、九三
製造者	八、九八	九、一八
小作農	一五、五七	一四、六七
自作農	三八、三六	二八、七二
地主	六五、五六	六八、一二

市部及郡部別直接稅負擔額表（昭和六年度）

		總額（千圓）				比率（%）			
		直接國稅	府縣稅	市町村稅	合計	直接國稅	府縣稅	市町村稅	合計
郡部		120,855	161,917	210,495	493,267	100	134	174	408
市部	大市以六都	129,685	37,865	64,569	232,119	100	29	50	179
	其外	48,335	35,418	49,005	132,758	100	73	102	275

備考　本表は大藏省主稅局第五十九回統計年報書（昭和九年四月）により作製したるもので千圓以下は四捨五入。

次に農村負債でありますが、これは畢竟前述の如き、賣るものは安く、買ふものは高い、田畑は値下りをするし、公租公課は重い、といふことが原因してゐるのであります。

明治四十五年大藏省理財局調査で、七億五千萬圓程の農家負債が、昭和四年帝國農會調査で四十億圓と推算され、現在では六十億圓を下るまいと見られてをります。その結果、農村の唯一の貯蓄機關である郵便貯金は、昭和六年の八億圓が、昭和七年に四億圓と半減し、又農家の唯一の財產たる田畑山林が、

借金の抵當として銀行へ流れこんでをります。長野縣では昭和五年を一〇〇とすれば、昭和九年には、田が二〇五、畑一七〇、山林四〇〇と云ふやうに銀行へ集中されてをります。

以上の如く自給自足經濟から、一部交換經濟に入り、都會の大資本と接觸を初めて以來、農村は長い間不利な立場に立ちつゝ現代に至り、遂に命から二番目の土地すら、失はうとしてゐるのが現實の姿であります。

第三章　我國農業の特質

我が國農業の將來

前章で、我國農村の現狀が、如何に憂ふべきものであるかを觀察いたしましたが、さてかゝる農村は、將來この窮乏から脫し得られるでありませうか。都會の大資本で行ふ商工業に打克つて行けるでせうか。

若し農村經濟——農家經營が引合はないとすれば、何のためであるか、その對策——それこそ新興農村運動であります——は如何にすべきでせうか、そのために我が國農業の特質について少し研究して見なければなりません。

耕地の所有關係

我國內地の總面積は、昭和五年現在で三千八百五十万五千町歩、その內耕地面積五百九十一万六千町歩（總面積の一割五分四厘）牧場原野面積三百二十四万町歩（八分四厘）、山林面積二千四万五千町歩（五割二分）、雜地九百三十万五千町歩（二割四分二厘）となつてをります。この面積の上に約六千四百四十五万人が住み、農家の戶數が五百五十九万餘戶あります。

更に耕地面積を、農家一戶當りについて見れば、昭和七年度にて、田が〇・五七二町、畑〇・四九一町、田畑合計して僅かに一・〇六三町にしか當つてをりません。但し北海道を除けば、更に狹い數字となります。

さて之を所有關係から見ますと、昭和七年に於ける耕地所有者數は五百十二万三百戶中、五反

未滿が約五割、五反——三町歩が四割二分七厘、三町——十町歩が六分六厘、十町歩以上は僅か一分であり、三町以下の地主が九割二分以上を占めて、如何に我國の地主の所有面積が狹いかを示してゐます。

又、昭和七年度に於ける自作農は、百七十五万四千五百戸（農家總戸數に對して三割一分一厘）小作農百四十九万八千六百戸（二割六分六厘）自作兼小作農二百三十八万九千四百戸（四割二分三厘）となつてをります。之を耕地別に見ると、田畑合して自作地が五二・三一%、小作地が四七・六九%を占めてをります。

經營の大いさ

耕地所有關係から見て、我國の農業が小規模ならざるを得ないことがおわかりと思ひますが、之を經營別に見ますと、狹い土地を多くの農家が經營せねばならぬことが、一層ハツキリといたします。

次表によれば、五反未滿の經營數は、全體の三四・八%を占めてをりながら、僅か全耕地の八・

經營規模	實數		割合	
	經營（農家）數	合計所屬耕地面積見積	經營	耕地
	千戸	千町	%	%
五段未滿	1.938	485	34.8	8.2
五段以上一町未滿	1.900	1.425	34.1	24.3
一町以上二町未滿	1.220	1.830	21.9	30.0
二町以上三町未滿	318	895	5.7	15.1
三町以上五町未滿	130	520	2.3	8.8
五町以上	69	742	1.2	12.6
合計	5.575	5.897	100.0	100.0

（註）有澤廣巳氏「日本經濟統計圖表」第四十表に依る

二%を經營してゐる有樣であります。かくて我國農業の特質は、小農經營、而も過小農或は零細經營であると言ふことが出來ませう。又それを外國の一經營當り耕地面積と比較すれば、我國農業の特質は一目瞭然であります。

即ちアメリカ合衆國三一・七町、デンマーク一六・一町、イギリス本國九・〇町、フランス九・一町、ドイツ五・五町、支那一・二町であります。しかるに我が國は僅か一・〇六町、これだけの面積で約七人の農家の經濟を、維持せねばならないのです。いかに農事に勤勉であらうと、物質的に見て、農村、農家經濟の好轉を見ないのも當然のことと考へられます。

農業は引き合はない

さて一戸平均一・〇六町と云ふ、小經營の農家經濟の實際はどうでありませうか、果して收支つぐなつてゐるでせうか。農林省の調査による昭和五年度の統計を見ませう。

これによれば、小作、自作、自小作何れも赤字を出してをります。しかも注意すべきことは、農家がぜいたくの結果、赤字を出したのではないことです。朝から晩まで一家總動員で働き、衣食住は、都會の人の想像もつかぬ程きりつめて、しかも一年の決算をして見れば赤字な

	農家の收入			農家の支出			
	農業收入	農業以外收入	計	農家經費	負擔家計費	計	農家所得
自作農	一、四四〇・〇九七圓	二八五・四五八圓	一、七二五・五五五圓	七八〇・〇六〇圓	一〇八・一九四圓	九一九・四七九圓	一、八〇七・七三三	△八二・一七八
自作兼小作農	一、五八二・六八一	二三〇・七八三	一、五八二・六八一	八二三・四一六	六一・四四八	七六七・九五四	一、六五一・八一八	△六九・一三七
小作農	一、二八四・七二九	二〇七・一四七	一、四九一・八七六	八九一・七四三	二〇・七三六	六六二・一七五	一、五七四・六五四	△八二・七七八

のであります。

このやうに農業は引合はない、況んや商工業に對抗して、農業で儲けやうとすることは、到底不可能であることがわかります。

大經營化の困難

そこで現在の小經營狀態では、農業——農家經濟が引合はない、それなら農業へも大資本を投じて商工業と同樣に、大經營化すればよいのではないかと言ふ議論が出るかも知れません。だがそれは工業生產と農業生產との、本質的な差異を無視した考へ方であります。

工業生產では、資本と原料と勞働力さへあれば、連續的に大規模な生產が可能であります。處が農業ではそれが出來ない、何故なら農業は第一番に土地に依存してゐるため、當然自然力に左右されがちとなるからであります。生產期間も多くは一年を單位とし、いかに資本を投じたとて大自然の力を變へることは出來ません。從つて工業のやうに、繼續的に大規模な機械を使用して生產することが出來ず、又農業では場所が廣く、固定的、地方的であるため監督がとどかず、生

産効果の豫想困難等々によつて、到底工業の如く大經營化することが出來ません。

これに加へて農業は主として家族經營であることから、引合ずとも生きて行かれゝばよいとして、從つて家族的小經營農業を維持して行くために、工業と違つて大經營化は困難であります。

農業で大成功する者は少い

以上によつて、農業は商工業に比較して、到底採算のとれるものでないことがわかります。論より證據、商工業では裸一貫から大成功して、百万長者になつた人は、古來幾人もあります。しかるに農業では、いくら成功したとて、無一物から百万圓はおろか、十万圓の財産を作つた人も恐らくありますまい。即ち金錢、物質、金儲けの點から考へれば、農業ほど割の悪い職業はないと言へませう。

と言つて、農業は儲からぬからやめて、儲かる職業に轉じたら我國はどうなるでせう。こゝに農業問題の重要性があります。物質的に見て儲からぬ農業を、如何に更生させるべきか、これが私達に課せられた、新興農村運動の使命となつてくるのであります。

第四章　來るべき新興農村

金儲目標から生活目標への轉向

現代は農村のみならず、文明そのものが行詰つてゐると言はれてゐます。それは、人のため世のためなどと云ふことを考へずに、たゞ人間の慾——物質慾を動機として働くことを生活信條として來た所に、今日の行詰りの原因があり重大な誤りがあつたのです。その結果、近代人は物質生活、金錢至上營利第一主義となり、人生勝敗の基準を金儲けの點に置くやうになりました。

農村問題を考へるにも、この金儲けの標準をあてはめれば、誰が見ても農業は引合はないと言ふことになります。

しかし、人間は金を儲けたばかりで、果して心の平和、人生の眞意義を體得出來るでせうか。近時の憂ふべき世相は、何れも生活の喜びと精神の安定を得ないためであることを思へば、如何

に物質生活、金錢至上營利第一主義の誤つてゐるかゞわかります。夏目漱石が、近代人は上皮だけで生きてゐると言つたのは、このことを諷刺したものでありませう。

私達はこの上皮生活——人生を金儲けで計ることをやめて、もつと深い人間生活を始めねば、今日の行詰りを打開する事が出來ません。卽ち肉的存在より靈的存在へ、物質生活より精神生活へ、金錢至上から聖愛至上へ、營利第一主義から奉仕第一主義へ、換言すればより眞實の生活への轉向であります。

農村生活もまたこれと同樣であります。金儲け主義を目標とする限り、確かに農業はつまらぬ仕事であり、かゝる考へ方でゐる限り眞の農村振興は出來ません。

しかるに眞實の生活を人生の基準としたらどうでせう、農業を營む者こそ、本當に大自然と合致した生活が出來るではありませんか。金儲け目標から生活目標への轉向、これが來るべき新興農村の指導原理でなければなりません。

美しき農村

金儲けで人生の勝敗を計つてゐたため、農業は儲からぬ、不景氣だ、嫌だ、と言ふ觀念が一杯で、ために一般に農村の眞の姿を見失ひがちであります。處が一旦、金儲け主義から生活主義へ轉向して農村を眺めるとき、農村本來の美しき姿が現はれます。

そこには都會で得られぬ、大自然の賜物があります。美しい空、清い空氣、清澄な水、輝かしき太陽、春夏秋冬を汚されない自然と共に暮す田園生活は、實に金錢にかへ難いものがあります。あらゆるものが生き〳〵として、人間の魂を洗ひ清めてくれます。草木の葉さへ健康そのものに輝いてをります。土に親しみ自然を友とする生活は、精神と共に健康をもあたへてくれます。

實に田園生活をのぞいては、人間の魂と肉體を養ふ處は絶對にありません。

されば古來より、英雄偉人は皆田園生活の讃美者であります。英のグラツドストーン、米のワシントン等何れも晩年は田舍に歸つて、一農夫として田園生活を送りました。かつてある人が、印度のガンジーに對して

「若しあなたが何等の束縛もなく、自由に地球上の一國を選び、その國民たり得るとすれば、どこを選びますか。」

と尋ねた時、ガンジーは

「それなら自分はデンマークを選ぶであらう。」

と答へられたのは有名な話であります。これガンジー氏が、商工業國を選ばず、農業國デンマークの生活を、一番尊んだがために他なりません。

又陶淵明の詩に、次の如き田園生活をうたつた句があります。

『少うして俗韻に適するなく、性もと邱山を愛す。
誤つて塵網の中に落ち、一去三十年。
羈鳥舊林を戀ひ、池魚故淵を思ふ。
荒を開く南山の際、拙を守つて園田に歸る。
方宅十餘畝、草屋八九間。
楡柳後園を蔭ひ、桃李堂前に羅る。
曖々たり遠人の村、依々たり墟里の煙。
狗は吠ゆ、深巷の中、鷄は鳴く、桑樹の顛、戸庭塵雜無く、虛室餘閑あり。
久しく樊籠の裏に在り、復た自然に返ることを得たり。』

私達も金儲け主義を棄て、充實した生活を目標とする時は、何れも田園の美しさと喜びにひたり、眞に意義ある人生をおくることが出來ます。

農村の魅力化

よく「百姓はつまらない」と云ふ言葉を耳にいたしますが、それは農業そのものがつまらないと云ふことではありません。これは物質尊重文明の結果疲弊した今日の農村と、金儲け主義に目のくらんだ農村人の誤れる人生觀であります。

しかしながら、實際今日の農村は、土地なく金なく、働けども働けども生活は樂にならず、たゞ苦しい勞働をすることが、農村生活であるかの如き狀態であります。これが農村の有爲な青年男女を都會に走らせ、ます〳〵農村生活を荒廢させた所以であります。

そこで、新興農村運動は、田園生活の眞の姿を探究すると共に、農村の農村たる魅力を發揮するやうに努力せねばなりません。

農村問題は　ただ働け〳〵のみでは、決して解決されるものではなく、農村生活は有難いと言ふ魅力があつてこそ、初めて眞に更生出來るのであります。

私達は、どうかして農村は農村としての誇りを感じ、農村生活こそは、よりよき生活、より眞實なる、より幸福なる生活であり、より優れた職業であることを感謝し得るまで、今日の農村を魅力化せねばなりません。

明治維新の志士の歌に

『世の中ののどけかりせばかねてより
身は花守となりなむものを』

とありますやうに、たとへ事情あつて都會にあらうとも、田園生活にあこがれる程、農村に魅力を持たせること、これが農村對策の重要な仕事ではありますまいか。

その氣持のいゝ生活

その氣持のいゝ心境

これこそ都會文明から得られぬ、田園に惠まれた獨自の生活であり、新興農村文化建設の目的であります。

第五章　新興農村人

精神更生——貴きは人なり

農村更生と言へば、直ちに經濟更生と思はれ勝ちですが、單に經濟のみで、農村は決して立ち直るものではありません。結局それは營利本位、物質萬能主義に陷るからであります。

眞の農村更生、農村文化の建設は、かゝる營利本位の經濟更生のみによるのではなく、廣く人類同胞のためと同時に、愛と奉仕の精神更生に待たねばなりません。所謂物心一如の更生にして、初めて農村の窮乏が打開されるのであります。二宮尊德先生が、幕末の農村更生に成功されたのも、一に報德と云ふ精神に立たれたからでありました。

これと同様に、現代農村でも着々更生運動の行はれてゐる處を調査すると、何れも熱心な精神家が中心となり、その人に皆が心を合せてをります。社會局發行の「更生農村を語る」と云ふパンフレットの中でも、農村更生の最大原動力こそ精神更生、つまり農村人としての自覚であると強調してをります。新興生活綱領の、『新興生活は靈的更生に出發す』と云ふことは農村更生にも又必要なのであります。

「大學」に曰く、

『德有れば此れ人あり。人有れば此れ土あり。土あれば此れ財あり、財あれば此れ用あり。德は本なり、財は末なり』

大學に言ふ德とは卽ち精神であります。現代農村に於ても、この最も必要であり、しかも閑却されがちな精神更生あつて初めて、經濟更生、農村更生の實を結ぶのであります。

二宮尊德先生が『心田を耕さざれば田を耕すこと能はず』と言はれたこの一言こそ、農村問題の眞髓に觸れた、古今を貫く名言であり、農村更生の基調はこゝに存すると申しても過言ではありますまい。

土を愛せよ

農村を眞に美しい農村とさせるものが、精神主義とすれば、先づ第一に私達は農村人として目覚めねばなりません。

農村人としての自覚の第一歩は、土を愛すると言ふことであります。つまりは金儲主義から生活の喜びへの轉向であります。

石川理紀之助翁が「經濟は人にあり、法にあらず」と言へるが如く、如何なる産業でも、人を得て榮えもし衰へもするのです。

農業又農村にとつて、一番憂慮にたへないのは、有爲の青年男女が農業又農村から離れ行くことであります。

農村に生れ、それより外に道がなかつたから、やむを得ず農村にとゞまり、農業に從事したと云ふのでなく、深い生活意識から特に農村に止まり、農業に從事したと命觀に立つた人と云ふことになります。

それが使命とあらば、よし如何なる困難があらうと、それと闘つても農村にふみ止まり、農業に從事する、それは實に貴い態度であります。

けれども、更に望ましいことは、苦しみつゝ、なやみつゝ農村にふみとゞまり、農業に從事するのでなくて、農業そのものを樂しみ、農村生活を樂しむやうになつて欲しいものであります。

孔子が『之を樂しむには若かず』と言はれた心持が思ひやられます。

こゝまでくれば、その人自身としては、もうこれで充分でありますが、更に望ましいことは、さうした自分だけの滿足生活から更に一歩をすゝめて、百姓生活農村生活そのものをして、近代人生活の意慾を滿足せしむるに足るほどのものを作り上げることであります。

私は特にこのことを、農村の青年男女諸君に申しあげたく思ひます。私はすべての青年よ、農村にとゞまれ、とは決して申しませぬ。かへつて金儲けを目標とする人々よ、一日も早く農村を去つてくれと言ひたいのです。そう云ふ心掛けの者が居ることは、どれ程農村の空氣を亂して、不愉快にするかわかりません。

私の叫びたいのは、眞に正しく生きたいと思ふ人々よ、又眞に人類同胞を思ふ人々よ、お互に

農村にとゞまり、第一義的生活をおくらうではないかと言ふことであります。何となれば、かゝる強い精神を有する人々のみが、眞に人類の戰士として、農村文化を築く事が出來るからであります。

農業で儲けたい、或は田舍で樂をしたい、自分のことばかり考へて、なるべく甘い汁を吸はうと言ふ考へをすてゝ、人類を、祖國を愛するが故に、土に親しみ土を愛し、村を美しくさせたいといふ誠意がなければなりません。

農村生活は物質的には惠まれない、又苦難があるかも知れません。だがそう言ふ利慾を離れて純眞な氣持になつて土を愛し、農村生活の眞意義を發見して行くところに、都會文明の及び難い尊さが存在するのです。土を單なる儲けの道具とせず、土を自分の友とし、土と共に研究し、土と共に喜びを分ち合ふ、そこに氣持のいゝ農村生活が初めて營まれるので、土を死物とせず、生きた物として育てあげて行く事が、新興農村人としての自覺の第一歩であります。

隣人愛

新興農村人は土を愛すると同時に、又隣人愛にめざめねばなりません。

私達がこうして生活出來るのは、決して私達一個人の力ではありません。直接間接に隣人に負ふてゐるのであります。それ故に、自分を愛すると同じく又隣人を愛さねばなりません。

特に都市生活は、團體的に組織され易いのでありますが、農村では家が孤立的で、個人主義的傾向が非常に強く、これこそ農村の最大缺點であります。

實に今日の農村で最も多く缺乏してゐるものは、金でもなく、智慧でもなく、技術でもなく、愛——隣人愛の精神であります。

三人寄れば文珠の智慧とか申します。自分さへよければ人はどうでもよい、と言ふわがままをやめ、愛の連鎖を以つて隣人と結び、相融合して一體となり、眞の新興農村人として、平和の理想郷を建設したいものであります。

かくの如く、土を愛し、隣人を愛することは、郷土と人類を愛することであり、やがてそれが奉仕と感謝の生活を通して、農村生活に於ける自然の神秘即ち神の愛にふれることでもあります。こゝにこそ農村人としての生活の喜び、何人に對しても誇り得る農村生活の尊さが湧き出るのであります。

信念の人たれ

金儲けの點では、到底商工業にかなはない農業に於いて、生活で競爭しやうとするには、強き信念が必要であります。遊び半分でこの難しい、しかも重大な農村文化の建設は不可能であります。

元來農業は自然を相手ですから、商工業の樣に効果が早く明らかに現はれません。一年、二年五年、十年と經過せねば眞の結果が判りません。それには強き忍耐と、燃ゆるが如き信念が必要であります。

しかもこの信念たるや、自己一身のためではなく、郷土の、農村の、國家の、人類の更生に關係してゐることであります。

佐久間象山先生は『我れ二十にして卽ち知る匹夫尙ほ一國に繫り、三十にして卽ち知る匹夫尙ほ天下に繫り、四十にして卽ち知る匹夫尙ほ五世界に繫がゝことを』と申してをります。

たとへ身は農村に於て土を耕し、稻をかり、牛を飼ひ、鷄を養ふ時でさへ、心は常に人のため國のため、人類のためであるといふ、確乎不拔の大信念にもえてこそ、眞の農村人として、意義ある生活をおくることが出來ます。

大いに晩年を生かせ

第二章で、都會に比して農村には、老人が多いことを述べましたが、私はこゝに晩年生活を農村人として、有意義に過すことを提唱したいのであります。都會と違つて農村では、老人も出來る仕事がいくらもあります。例へばある種の村の世話役、其他骨折にならぬ仕事は老人が引受けて、働き盛りの人々に、もつと生産的な仕事をさせたらどれ程助かることでせう。このやうに老も若きも、農村人として一體となり、各自の務めを果してこそ、眞の農村が建設されるのであります。

最後に、都會で功成り名とげた老年者にお願ひしたいことがあります。こう云ふ人達こそ、都會にをらず故郷へ歸り、文化施設に惠まれない農村人を指導し、農村をしてます〳〵魅力あらし

めるやうにしていただきたいのであります。「故園歸臥」と云ふ言葉がありますが、文字通りの歸臥でなく、自己の知識と豐富な經驗を以て、大いに農村文化を開發し、自己の晩年を農村人として、役立たしめていただきたいのであります。

おそれ多くも　聖上に拜謁の光榮に浴した、靜岡縣濱名郡中瀨村の篤農家水谷熊吉翁は、本年六十九歳の高齡にもかゝはらず、農村子弟の薫陶と多角農經營の研究に專念されてゐます。農聖とさへ尊敬されてゐる翁曰く、

「私の目的は財産を作ることよりも、共存共營にあるのだ。この目的達成のためには死ぬまで闘ふのだ。」

この人にしてこの言あり、私達の模範とすべき新興農村人はかくありたいものであります。

第六章　新興農家の經營方針

農業經營の特色

農業以外の產業、特に工業では、直接自己に必要でない商品を作り、それを一度販賣して金に替へ、その金を以て自己の必需品を購入します。凡てを貨幣價値に換算しますから、收支が明確となり、その結果一層金儲けに專心するやうになります。これが都市經濟、交換經濟の特色であります。

しかるに——農業農家では、直接生活必需品、例へば食料たる米麥を生產しますから、工業のやうに一度貨幣に換算する必要がありません。從つて農家經濟の本質は、自給自足經濟にあると言はれます。インドのガンヂーの說く指導原理も、形こそ異れ自給自足を中心としてをります。この點をよく心得て農家經濟——農家生活を研究してゆけば、あらゆる職業の中で、農家が一番

豐かな、一番氣持のいい生活を創造することが出來る筈であります。

しかし、こう申したとて、私は完全な自給自足を無理矢理に强調するのではありません。第二章で述べたやうに、現代の農村經濟は、本質的には自給自足を建前とするものですが、すでに都會と接觸してをり、一部交換經濟に入り込み、變形した樣子を呈してをるのであります。だから自給自足經濟——農業經營の難しさが倍加してくるのであります。私達はこの點を頭に置いて、新興農家の經營方針を研究せねばなりません。

經濟化

前述の如く、農家では完全な自給自足は出來ませんが、さりとて現在の如く交換經濟に入り、しかも一層金儲けに專心する傾向は感心しません。いくら農村人が儲けやうとしても、大資本で統制のとれた都會にとうてい太刀打は不可能です。

そこで問題は、いかなる程度に自給自足をなすべきか、と言ふことになります。

農家の生活が、如何に生活必需品を生產するから自給的であるとは云へ、絕對になくなし得な

い現金支出があります。例へば公租公課等の税金、電燈料、教育費、其他農家で生産し得ぬ道具類の購入費等は、やむを得ざる必要な金であります。だからこれ等の費用を得るだけは、どうしても交換經濟に入り、生産物を賣らねばなりません。ところが、現在の農家では、これ等の費用以上に現金支出をしてをります。農林省の農家經濟調査に依れば

農業經營費細別

費目	總計費	内、現物支拂額	現金支拂額
	圓	圓	圓
種苗費	三四・四一八	二五・〇二四	一二・三九四
飼料費	二〇一・七四三	一七四・九七二	二六・七七一
肥料費	三一六・一七九	一四七・一四五	一六九・〇三四
其他	五九六・六三三	二九三・五四二	二二二・六九五

これによれば現金支出は、四百三十圓で正に總計費の五割に當つてゐます。特に肥料費など、

現物支拂額よりも現金支拂額は遙かに超過してゐます。そのために何とかして金を得ねばならぬ、金を得るには生産物を賣らねばならぬ。しかるに生産物の賣買に際しては、第二章で示した樣に農家は常に損失を蒙ります。故に、私は少くとも食料品と肥料は自給自足とし、他のものも出來得る限り自給化したいと思ひます。

從つて生産に當つても、從來の如く、賣らんがため、儲けんがための生産方針は、大いに改めねばなりません。先づ第一は自給自足を目標とし、止むを得ざる費用のためか、或は餘剰物に限つて貨幣化することが、農家の新らしい經濟化であると信じます。

自給自足がたて前となれば、賣らんがための單一經營でなく、いきほひ多角農經營が必要となり、又或程度の農村工業化も行ふ必要があります。

科學化

前節の農家經營の經濟化は、主として生産經濟についてでありますが、私は農家經營の消費經濟を、科學化せよと叫びたいのであります。

都會文明は、確かに害毒をもたらしましたが、又一面良い點もあります。その一つは經營の合理化、即ち科學化の點であります。收入計算を明らかにして、無駄を省き、入るを計つて出づるを制することは、農家經營でも是非實行せねばなりません。いくら自給自足と言つても、昔のまゝの、いくら入つていくら出たか判らぬやうな家計法では、必ず經濟の破綻を來たします。

このためには一年の收支を記帳し、我家の生活を一目瞭然ならしめる必要があります。デンマークが、農業國として今日の如き隆盛を來たした最大原因は、收支計算的であると言はれてゐます。まことに農家の簿記こそ、科學化の出發點であります。新興農家經營の基調を豫算的であり計畫的たらしめんとする理由は、ここに有るのであります。

そして家計に於ても、出來得る限り自給自足主義により、現金支出を減少したいのであります。農林省の農家經濟調査に依れば

家計費細則

費目	總計費	內、現物出資額	現金支拂額
	圓	圓	圓
飲食費	四九五・〇七五	四〇五・一四八	八九・九二七
被服費	九七・五四八	四・七九一	九二・七五七
光熱費	七三・三三〇	四五・五六六	二七・七六四
交際費	八三・三〇三	一二・九一七	七〇・三八六
其他	三六八・一七四	一七・二二五	三二七・五一〇

實に現金支出は、六百八圓にのぼり、家計總計費の五割に當つてゐます。かゝる不合理を是正して出來得る限り現金支出を小額ならしめたいのであります。特に交際費總額の八割五分も現金支出してゐることこそ、農家の生活改善の必要を物語るものであります。

趣味化

農業はつまらないと言ふのは、金儲けを人生の最高目標としてゐる人の嘆聲であります。これに對して、生活の豐富さを以て人生の價値を計る時は、無限の喜びが湧いてまいります。かくの

如く、生活を豐富ならしめるために、私は生活の趣味化を提唱するものであります。農家經營も趣味を持つて初めて完成されるのであります。

趣味とは、興味が一時的の興奮に對して、恒久的であり、又興味が專ら外面的であるのに、趣味は內面的であり、心からの樂しみと喜びがあります。

若し、生活に、農家經營に、この趣味が加はつたら萬々歲です。そこから苦痛と不滿は消え去り、「君子有三樂」の喜びに滿ちあふれた境地に、達し得られるのであります。

更に生活の趣味化を徹底させて、一人一研究を、是非農家で實行したいと思ひます。各家各人が、必ず何か一つ研究して、そのことについては村の權威者となる、そして各々の研究を有無相通じて、自他共に生活を向上させるのであります。農村には研究を要することがいくらでもあります。

第一は農村食の研究であります。限られた費用で、又地方產物を以て、如何に榮養價を高め、如何に安く料理出來るか、等の研究は、農村人、農家の最大關心事であります。

（食物研究については、本館出版の岸田軒造氏著『生活安定の鍵』を御覽下さい。）

或は住みよい住宅の研究、臺所の改善も必要であります。漬物でさへ村一番、日本一の研究家となれば、どれ程人のためになることでせう。

其他、農業經營の研究、農具の改良、多角化の研究、養蠶、養鷄、副業の研究等々、私達の周圍には、いくらも研究すべきことがあります。こうした一人一研究こそ、農村生活を趣味化し、生活に喜びをあたへ、新らしき農村文化建設の基礎となるのであります。

第七章　新興農村の經營方針

組織化

徳川時代の村は今と違つて、農村生活が凡て村單位でありました。例へば租稅の割當では村へかゝり、五人組又は村全體の責任で納稅した如き。或は訴訟の如きも、村と村とが行ひ、村が財產を所有し、村が自分の名で賣買貸借することができ、その際村と言ふことは村役人と總百姓の

總體を意味してゐたのであります。又村の住民も農民を主とし、原則として他の者を住ませず、經濟的にも村は自給自足を行つてゐました。卽ち政治的にも、法律的にも、經濟的にも、生活的にも、村を單位としての自給自足經濟が特色でありました。

しかるに、近代の貨幣經濟と個人主義が農村に侵入して以來、農村自治體は、實質上破壞され經濟的にも生活的にも孤立化するに至り、遂に今日の如き行詰りとなつてしまひました。元來、農業は家族經營でありますから、ともすれば孤立的になりがちでありますが、德川時代は、太宰春臺が『農を本業といひ、工商賣を末業といふ。四民は國の實にて、一つ缺けても國といはず、然れども農民少ければ、國の衣食乏しく成る故に、先王の治めには殊に農を重んぜらる』と言ふ農本思想のために、村を大切にしたのであります。

こう言つたとて、私は何も現在の農村を、德川時代へかへせと言ふのではありません。もとより農家でも農村でも、完全な自給自足の不可能は萬々承知であります。それにも拘らず、將來の農村は、現代生活に適應しつゝ、出來得る限りの自給化を計らなければならないと申すのです。

そのためには農家自身で、自給化のために多角農化すると同樣に、農村自身で、自給化のため

に村單位の多角化を計る必要があります。一農家だけでは難しいかも知れぬ自給自足は、村單位となれば完全に行はれませう。かくて村のことは村の手で、これが農村經營の根本方針でなければなりません。

この目的のために、最も重要な役割を演ずるのが、協同組合と生活組合であります。農村の經濟的更生は、自給化と協同化に相つづく大であります故、協同化については、章を改めて詳しく研究することにいたしませう。

生活合理化

生活改善にせよ何れにせよ、一人で實行することは仲々困難であります。これが數人集まつて行ふとか、村全體協力すると、すらすら出來るものです。この意味で農村生活の合理化を、私は村一體となつて行ふことをすゝめます。先づ最も手近の衣食住から初めませう。

衣服

衣服と言へば、第一に必要なのは農村向きの衣服、特に婦人作業服の考案であります。見て感じの良い、しかも安く、丈夫で働きよい作業服の制定こそ、婦人の仕事を倍加するものであります。これに關しては、靜岡縣田方郡田中村の土屋忠作氏が、女子の農業勞働服改良のため、晩年生活をさゝげて奮鬪され、着々効をおさめられてゐます。

農村食

次に農村食の研究であります。元來人類は手近の食物で生活するのを本旨とすべきで、特に農村生活も、なるべく自家製の、少くとも自分の村は自分の村の食物で、自給して行かねばなりません。そのためには先づ、自分達で作つたものを、自分達の口に合ふやうに調理加工するため、その地方の風習、氣候、經濟狀態に適した農村食研究が必要となります。例へば米の出來ない地方では、米を主食物とせず、他の食物を併用するとかして、食物を買ふ金を得るために、食物を賣ると言ふやうなことは絶對にさけたいものであります。

自給自足的農村食を確立するには、當然自給自足的生産を必要とします。

この點については、糧友會のパンフレット、「農村食生活讀本」の中にある、左表が非常に參考となります。

- 農村食生活安定方法
  - 食生活安定の爲物（自給自足主義物の利用法知得）
    - (1) 農村食の確立 美食と粗食、主食と副食觀念の矯正
    - (2) 自給自足的生産
      - 米、麥、粟、稗等穀類
      - 馬鈴薯、甘藷等芋類
      - 大根、玉菜等根葉菜類
      - 大豆、小豆等豆類
      - 之等の内土地に合つたものを選び食用に足る丈の量を先づ生産
      - 小家畜（肉は食用、糞は肥料）
    - (3) 現在食用しあらざるものの食用化（生産の擴張）
    - (4) 冬に對する貯藏
    - (5) 食用の爲の加工
    - (6) 農村寡所及炊事調理の改善
  - 食生活以外の生活資料を得る爲
    - 販賣的生産
      - 土地に適する作物
      - 需用多いもの
      - 高價に賣れるもの
      - 之が有利販賣の爲の加工、貯藏
      - 收入多きものを選び自給自足的生産の餘力傾注
  - 金
    - 食物生産以外よりの收入
    - 救濟金其の他
      - 低利資金の融通
      - 租稅、公課の減免
      - 負債モラトリアム等
- 指導並實行機關（農家生活組合）の設置

さて、かやうに生産したものを、如何に加工すべきかであります。勿論各地それ〳〵異るでありませうが、一例として前記パンフレットにある種類を御參考までに書き添へておきませう。

食生活向上のための加工

- 穀物加工
  - 農村パン
  - 裂麹
  - 飴
- 薯の加工
  - 切干
  - 澱粉
  - 馬鈴薯
- 豆の加工
  - 味噌
  - 豆納豆
  - 大黄豆
- 其他野菜果物の加工
  - 乾野菜
  - 乾果實
- 獸肉加工
  - 農村味噌（鹽）
  - 豚肉ハム
  - 兎肉
- 魚肉加工
  - 燒鹽乾魚
  - 干魚

農村食の材料となるものゝ生活加工についで研究すべきは、これらの炊事調理法であります。食物のうまいまづいは、一に調理法如何によりますのに、從來の我國の農村は、省ることをしませんでした。

農村食の調理法については、手數をかけず、安價で村に出來る材料で、簡單に榮養食となり、

それを調理するに器具を多く使用しない、等の條件が必要であります。この點を考慮して、雜炊式料理、混炊料理などを研究したいのであります。例へば、山梨縣都留郡禾生村の井上と云ふ人は、農村榮養食の研究をしてをられましたが、このほど人參から液をとり、發芽大豆と胚芽米を擂碎混合して、豆乳を作ることに成功し、しかもこれは臭みもなく、ヴイタミンＡＢＣＤ全部を含んでゐるさうです。

かくの如く、農家で、農村で研究して行けば、農村の食生活は大いに改善せられ、農村食と云ふだけでも農村に慰安と喜びをあたへ、農村をして魅力あらしめる一因ともなるのであります。これに關して、是非とも作らねばならぬのが、村の料理研究所であります。

今日は何れの女學校でも家庭料理の教育に力を注いでをります。また社會では、幾多の講習會が開かれて、實演指導もされてをります。

しかし、從來のでは、日常生活に應用しようとする時、多くの場合、材料と經濟が一致せず、思ふやうに役立ちません。ことに、それが純農村では、その月々田畑に產するものと、殆んど沒交渉であります。

そこで、一方こうした缺陷を補ふと共に、更に積極的に「農村食」の榮養經濟、時間等の、合理的向上進歩を計るために、各農村毎に「何々村料理研究所」なるものを起し、その村で出來る季節々々のものを材料として、その村獨特の料理を研究し、「我が村の料理」といふものをつくりたいものです。かくして出來た村の料理がいよいよ精練せられ、その特長を發揮することが出來れば、實に愉快なことです。

何よりも眞先きに、自家の田畑に出來る季節々々の材料で、工夫して頂きたいものです。かくして出來た優秀な我が家の料理は、これをその家のみにとゞめず、一定の集會日に村の料理研究所に持出し、研究所は各戸から提出された料理を研究選定して、その中の最優秀品を「村の料理」に採用し、採用した料理は普く村内に及ぼすといつた方法をとりたいのであります。さうして「我が家の料理」を「我が村の料理」へと進出せしめるのです。

各戸から提出された「我が家の料理」を「村の料理研究所」では、互に研究的態度を以て、更に新しく採用した料理はその都度謄寫版で印刷に附し、村内一般に配布します。また、研究所では、何年何月何某の提出による何の料理を「村の料理」として選定した旨を記錄に殘し、一年々

々その進歩の跡を見得るやうにいたします。

それと共に、研究所は、その月々の献立表を作製いたします。主婦達は榮養と經濟と時間等の合理的研究によつて、出來た村の料理献立表によつて、毎日の臺所をするやうになれば、村の生活は、物質的に經濟的に將又精神的に、統制ある美しい農村生活を、營むことが出來るやうになりませう。

從來、献立表は、大抵その單位が一週間でした。しかし農村の場合には週間制は不適當でありますから、それ〴〵の郷土により習慣によつて定めねばなりません。例へば一日、十五日には赤飯を食べるとか、餅を搗くとか、或は晦日蕎麥の習慣、三月の節句、五月の節句、彼岸、土用、收穫時などと、その月により特色といはれがあります。それらは收穫の作物にも關係があります から、其點考慮せねばなりません。かくして、出來上つた献立表は、始終會合毎に研究を重ね、改善に改善を加へて、献立表そのものゝ不斷の進歩を計りたいものであります。

臺所改善

農村食研究が進めば、どうしても食物調理の本據たる臺所の問題が起ります。

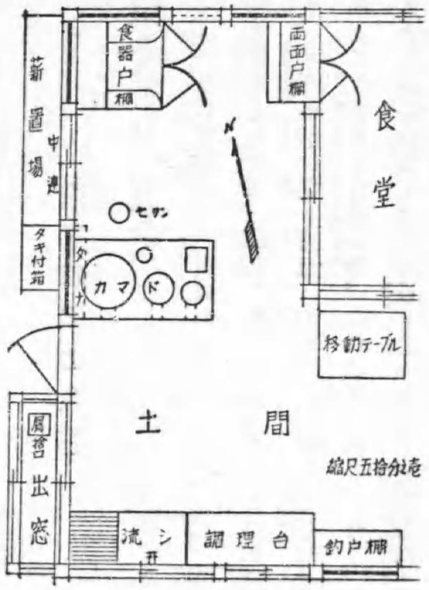
我が國農村では、昔から臺所は家中で一番惡い場所と定つてゐました。採光が不十分で薄暗くじめ〳〵して不衛生きはまり、しかも臺所の設備がよくないので、能率が少しもあがらぬ有樣です。

そこで、新興農村は、まづ臺所改善からと言ふことになります。しかし臺所改善と言つても、費用はかゝることであるし、一人一人では實行しにくいものです。こう言ふことこそ村一體となつて行へば、容易に出來るもので、その良き例が、靜岡縣富士郡原田村であります。

原田村の婦人會では昭和二年四月に十一ケ年計畫で全村のお臺所を改善することになり、村內五區に「臺所改善講」といふ無盡を作つて、一口五十錢として、毎月一回抽籤を行ひ、當選者は五十口分二十五圓を受取り、それに適當な金を加へて、臺所改善を行ふ企てでした。

婦人會の會長さんが先頭に立ち、小學校に模範臺所を作り（左圖參照）、各家ではそれを參考にして適當に考案改善し、ついに豫定より三年早く、全村五百五十餘戸が皆臺所の改善を完成して明るい村となつてをります。

その結果、この村の主婦は、今までお臺所で一日に歩く平均里數が三里といはれる程のムダな働きが減少され、從つて雜用には下駄が半分もへらなくなり、その上に或る家では、一年の豫定で買込んだ薪が二年使つてまだ餘つた、と言ふ話もある位です。臺所改善によつて、如何に勞力が省け、能率が上り、經濟的に助かり、各家庭農村が喜びと明るさにみちることでございませう。



（平面圖）所台範模會婦人村田原
靜岡縣富士郡
原田尋常高等小學校

生活改善—消費節約

農家經營の中で、現金支出の最大額は、いはゆる交際費であります。その中心は贈答品でありますが、私はこれをすべて自家製とすることをおすすめいたします。農家が何も都會の品を買つておくる必要はありません。自分の

手作り品をたづさへて精神をおくる、これが眞の土産なのであります。土産とは土の産物、即ち農産物のいみであることからみても、贈答品は一切自家製と云ふやうに、村全體が勵行したいものであります。

冠婚葬祭の改善

一般交際費以外、臨時費として莫大な現金支出をするのが、結婚と葬式であります。特に娘三人持てば一身代が終る、と言はれるほど結婚費用は、農家にとつて大事であります。生産に消費にいくら節約したとて、結婚に千圓も二千圓もかければ、農家が經濟的に破綻するのは當然であります。生活改善の第一歩は、實に冠婚葬祭の改善にあると言へます。

これとて改善法は自給主義、これ以外にありません。式服調度等一切自給化し、實用的なものですませたいものです。その最も良い例は、宮城縣桃生郡廣淵村縣營開墾地で行はれた結婚式であります。七組の結婚式を村の農業會館で合同して行ひ、一組四十圓で濟ましたのであります。花嫁の費用は紋服代（手織の木綿を染めた染代）五圓、角隠し七十錢、化粧料五圓（髪結代を含

め）其他帶、はき物等あり合せですまし、花婿も着物羽織袴等すべて新調せず、持合せでまに合せたのであります。

かやうに村全體で氣を揃へさへすれば、冠婚葬祭何れでも改善され得るのであります。

時間の問題

農村生活で一番自他共に迷惑するのは、時間の觀念が薄いことでありませう。農村生活の計畫化、合理化は一にかゝつて時間勵行にあると言へます。そこで村の規定とし、公私の會合には、指定時刻迄に必ず出席すべきこと、又は、他家訪問は、食事休眠の時間をなるべくさけて、話は簡單にし、他人の時間を空費させぬこと等を實行したいものです。

公私の集合時間はなるべく夜間とし、時間は早目として、夜遲くならない樣に氣をつけ、農村生活は矢張り、早寢早起を大に勵行することが肝要であります。

學校化

農家經營方針でも述べましたやうに、私は一人一研究を村として奬勵したいと思ひます。村を單位としての自給化を計るには、どうしても村にそれぞれの專門家が必要であります。そのために各人が何か一つ研究をして、そのことについては村一番と云ふやうにしたいものであります。例へば、肥料については甲君、小麥の增收法は乙君、漬物は丙君、洗濯は丁さんにきけば、何でも一番よいことが解ると云ふやうになれば、わざ〳〵遠方から高いお金を出して、人を頼んで敎へて貰ふ必要がなく、村のことは一切村人で處理が出來ます。こうなれば、高い學資を出して子弟を上級學校に學ばせる必要もなく、村に專門家が居て敎へてくれますから、敎育費だけでもどれ程節約出來るかわかりません。村の子弟には村の專門家が親しく手をとつて敎へる、そこには現在の上級學校の如き單一化と不熱心とがなく、其の地方地方に適した實際的敎育が行はれ、又村人同志のこと故、子弟の間は溫かく親しい感情が流れ、かくてこそ眞の農村生活の喜びと魅力が湧き出るのであります。これが農村を學校化せよ、と私の叫ぶ理由であります。

それから農村を學校化するもう一つの方法は、一人一研究及改善改良の集中と普及化であります。たとへどのやうに立派な研究や改善を完成しても、それを自分一人で私してゐるのでは實

の持ちくされであります。誰でも絶海の孤島で一人生活した、ロビンソンクルーソーの生活工夫の優秀さに驚きますが、廣く社會的に見れば、何の價値もありません。その良い點を萬人に知らしめ、萬人のために役立たせてこそ、私達の人生が有意義化するのであります。特に村の文化を建設し、村の事は村でやつて行くためには、良い研究や改善改良は村全體に廣める必要があります。これがため村を中心として、一人一研究、改善改良事項を、一定日時に募集して、その中で村全體に奬勵する價値あるのを選び、賞をあたへ、更に印刷し各戸に配布、或は巡回展覽講習等を行ひ、その良い點を普及させるのであります。更に村から縣へ、縣から國へと集中し、今度は縣から村へ、と云ふ樣に普及させたなら、獨り農村文化のみならず、國家的見地から見ても意義あることゝ存じます。なほこのことについては、靜岡縣社會課發行「生活改善實行事例」を御覽下さい。

家庭化と花園化

農村と言へば、都會と異なつて面積も廣いため、なか〳〵生活を接近させがたいのですが、人

情の點では都會に比較して遙かにこまやかであります。農村の新しく生きる道は、この人情——隣人愛を基調として行かねばなりません。農村全體が自給自足の一單位として、家庭的に結ばれることこそ、新興農村の理想であります。例へば村人の相互扶助、或は敬老會、學藝會、娯樂會等で村人の間に和氣藹々たる空氣をつくり、眞の農村生活の喜びにひたりたいものであります。

農村の家庭化と並んで、農村をして魅力あらしめるために、私は農村の花園化を提唱いたします。農村にはずいぶん無駄な土地が多く、特に住宅の周圍など荒れ放題にしてあります。日本農村の一戸當平均耕作面積僅か一町餘と言ふのに、かゝる土地を遊ばせて置くのは如何にも勿體ないことです。そこで第一にかかる土地を出來る限り耕作地とすること、第二に花園化することをおすゝめいたします。特に天然自然の美しかるべき農村が、荒廢した有力な一原因は、農村人が農村を愛し、優しくいたはらなかつたことを思へば、農村の花園化、美化運動は、農村の魅力化から見ても是非實行せねばならぬものです。

花園化とは、宅地の周りとか、道路等に花を植へ、農村全體を一つの花園とすることで、「花より團子」主義から「花も見よ、團子も食へ」、「詩を作るより田を作れ」主義から「詩も作れ、田も

作れ」と、なるべく農村生活を趣味化し藝術化することであります。かくすることに依つて、農村生活をしてます〳〵內容を豐富にさせ、人々の心を慰め安らかにして、以て農村文化の建設の一助としたいのであります。

第八章　協同化と生活組合

農業の協同性

農業經營の本質が家族經營であるために、對內的には經營上の不確定、對外的には協同生產統制の困難となり、常に都會資本に壓迫されがちなことは、前に述べた通りでありますが、そうであればある程、又來るべき農村は協同化にまたねばならないと思ひます。

勿論、小經營である點は、農業と小賣商と同じでありますが、「共通の利益」と云ふ點で大きな相違があります。小賣商では他人が損をすれば自分が得をし、自分が損すればそれだけ他人が儲

けると云ふやうに、利益が共通しないので、徹底的な個人主義であります。しかるに農業は自然といふ、人力で如何ともしがたいものを相手としてゐますから、多分に利害の共通してゐる點があります。例へば農業生産物は量から見て大體一定してをり、價格が高いとて直ちに増し得ず、又一人だけ高い値段で賣買出來ず、むしろ個人的になる程つけこまれて損をします。しかも農村では、都會の小賣商人と異り、他人の損が自分の得とならず、かへつて一軒が安く賣れば他もそれに追從せねばならず、從つて榮えんと欲すれば農村全體が協力するより他に道がありません。利害の共通、こゝに農村の協同的性質が存するのであります。

又農業經營の合理化、機械力の使用等に於ても、特に農村自給自足化に對して、この協同化が必要であります。

元來、昔は農村が非常に協同的でありました。それが商工業の勃興につれて、資本主義的經濟が段々と農村に侵入して、個人主義的傾向を強め、現在の如き窮乏に陷つたのであります。故に私は營利第一主義の個人主義を否定します。またその正反對の社會主義をも否定するものです。そこで兩者の缺點を去り、長所を取入れ、現在の小經營を維持しつゝ、農村を更生させるために

農村協同化を提唱するのであります。

生産販賣の協同

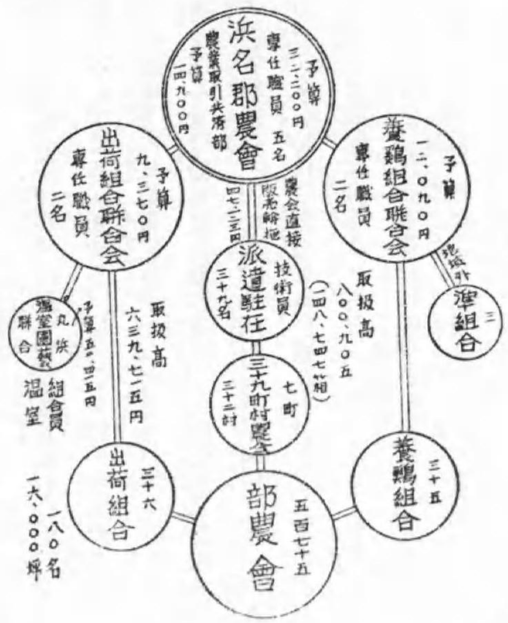
生産の協同は、主として現在では農事實行組合に依つて行はれてをります。協同と言つても生産全部を協同するのではありません。協同して行つた方が勞力が省けて能率的な部門を協同するもので、農會の指導下に最も普通なのが、機械の協同——精米、製粉、調製等と、苗代の協同であります。更に進んで自給化のための生産、生産統制等を協同化してゆきたいと思ひます。

其他には養蠶實行組合、畜産業の協同經營等が組織され、着々その成績をあげてをります。

更に生産の協同と同時に、當然起る問題は販賣の點であります。前に述べた如く、個人個人では、生産物の販賣に農家は非常な不利を蒙りますから、販賣の協同は最も重大で、現に農村更生に成功してゐる處では、何れも熱心に協同販賣を實行してをります。

協同販賣の第一の利益は生産物の大量化と標準化が行はれること、第二、從つて價格を高めること、第三、中間商人に儲けられないことであります。この協同販賣は主に出荷組合によつて行

濱名郡販賣統制圖



備考一、豫算は昭和九年度　二、取扱高は昭和八年度
三、町村駐在技術員は縣農會地方技手

はれてをり、近來非常な發達をとげてまゐりました。そのよき例は、靜岡縣濱名郡農會指導の多角經營と出荷組合の活動であります。

圖の如き一絲亂れぬ生産販賣の統制に依つて、驚くべき成績をあげて居るのであります。

なほ參考までに我國の生産販賣に於ける協同組合の現在を見ますと

農事實行組合	一三、九三三組合
農事改良實行組合	一二、八一八組合
養鶏組合	三、四九五組合
共同作業組合	二、八〇二組合
出荷組合	一、九七九組合

其他合して昭和六年末に於ける組合數は、一八三、九九五、組合員數は五、三四七、四三〇人に達してをります。

消費の協同

消費部面に於ける協同の最大なるものは、購買の協同であります。農村經濟は自給自足經濟を本旨といたしますが、すでに明らかなる如く、完全な自給化は不可能で、どうしても現金で必要品を買はねばなりません。そこで購買に際していかに安く買ひ、出來るだけ現金支出を少くするか

の問題となり、その解決策として協同購買が必要となるのであります。

購買組合の利益としては、次の點が考へられます。

第一、農家が協同して大量の注文をすれば、賣る方でも信用ができて、又費用も省け、從つて廉價となる點であります。

第二、個々では品物の檢査など行はれがたいが、協同すれば、眞にその地方に適した良質の品を買ひ得ること、特に肥料はこの點が重要であります。

更に協同購買を中間商人をへずに直接生産者と取引すれば、前記の利益の他に商人の利益をなくすることにより、價格の低廉さが得られます。即ち商人から買ふ場合には、その價格が仕入價格と經營費と利潤の合計であるに反して、協同購買に依れば、仕入價格と經營費のみで、商人の利潤に當るだけ安くなるわけであります。

次に協同購買に關聯して、金融の問題について一言しておきます。農村の資本は、銀行預金、郵便貯金、或は都市産業への投資等に依り、どし〳〵農村から流出してゐます。そして金の必要な時は高い利子でかりると云ふ有樣です。そこで農村の自給化のたて前から、なるべく村の金は

村へ、と私はすゝめたいのであります。このために私は農村信用組合の健全な發達と利用を願ふものであります。現に農村更生協會主催の座談會でも「村の金は村へ」の標語が叫ばれてゐるのは、その重要性をよく物語つてをります。

産業組合

生産、販賣、購買、信用、利用の協同化について研究すると、どうしても産業組合にふれねばなりません。と言ふのは、我國では前記の協同組合が、主として産業組合、特に農村産業組合の下にあるからであります。簡單に示せば

産業組合中央會及聯合會の下に

信用事業では、産業組合中央金庫(中金)

販賣事業では、全國米穀販賣購買組合(全販聯)

購買事業では、全國購買組合聯合會(全購聯)

があつて各々活動をつゞけてをります。今その概況を示せば(昭和六年度)

信用組合

組合數　一一、三五八

貸出金　一、〇〇五、六七二、五九九圓

預金　一、〇七〇、八〇三、〇五三圓

販賣組合

組合數　八、一七六

販賣額　一八一、一四〇、二〇〇圓

販賣品　米、生絲、繭、織物、蔬菜果實、畜産物、水産物、林産物、麥、等

購買組合

組合數　九、九三一

購買品　一一三、五三八、五八〇圓

取扱品　肥料、工業原料品、飼料、米、酒、醬油、等

利用組合

組合數　五、四二四

利用料　五、三九一、五一七圓

利用品　乾繭裝置、精米麥機、製絲設備、籾摺機、肥料粉碎機

要するに相互扶助と共存共榮を目的とする産業組合に依つて、農村の協同性を强化して、村のことは村で行ひ、農村協同文化を建設したいものであります。

生活組合

我國の今日迄の農業政策、農林行政は、米、繭、その他農産物の增産改良といふことにのみ重心をおいて、それらの物を作る農村民の生活と云ふことは一向顧みられませんでした。

しかし農村問題の解決には、農業生産所得の增加を計ること以上に、生活の改善向上化にまたねばなりません。

私達は、我國の農村問題が生産問題であるよりも、より多く生活問題であると信ずる者であり

ます。即ち我國の農村問題を解決するためには、農業收入の增加を計る以上に、農村民の生活を農村民的に向上せしむることにつとむる必要があります。そこで私達は、産業組合運動と並んで、生活組合運動を起すことの必要を主張するものであります。

産業組合は、いはゞ農村の經濟生活の協同化でありますが、私は魂の協同化としての生活組合を提唱するのであります。生活組合とは、五乃至七人を單位とする人の集まりで、精神的の結合によつて、生活上の問題を解決して行く方法であります。

生活組合としては

1、血族的なもの

2、地域的なもの

3、人生觀を同じくするもの

等に組織されますが、農村では第二の地域的生活組合がよいと思ひます。生活組合は近くの者で組織し、一定日を決めて同人の家へ順々に集ります。そして生活上のあらゆることについて話し合ひます。いはば生活の訓練であります。そこで

第一、生活組合は頭腦聯盟であります。

昔から、膝とも談合と言ひ、又三人寄れば文珠の智慧とも言はれて居りますやうに、自分一人ではどう考へて分別のつかぬことでも、それをよき友の前に持出すと、不思議に解決がつくものであります。同人はこの點お互によき友であり、頭腦聯盟であります。つまり頭の協同化であります。

第二、生活組合は共濟聯盟であります。

私達の一番苦しむ生活問題も、頭腦聯盟で考へ、生活計畫を協同で樹立いたします。特に同人の不時の災難と將來にそなへるために、生活の一割切下げを申し合せ、節約費を共濟資金として積立てゝ相互のためを計ります。なほ生活計畫の點は、新興生活叢書第一輯の『生活計畫』を參考にされんことを願ひます。

第三、生活組合は友愛聯盟であります。

類は友を以て集るとか、言はれてをります樣に、同人は人生の考へ方、理想等について互に勵まし合ひ、眞の農村人としての人格を養成する事につとめたいのであります。

第四、生活組合は娯樂聯盟であります。

元來農村生活には娯樂が少ないものであります。生活組合では時々家族一同會合して、學藝會やお話會を開き生活にうるをひをあたへたいものです。

以上の如く協同組合に依る經濟の協同化と相まち、生活の力は生活組合で協同し、經濟生活と精神生活とを協同化し、融合統一化し、農村文化をしてます〳〵充實させ、又魅力あらしめたいと思ひます。

第九章　新　地　主　論

新興生活館農村部の使命

近代文明の弊害たる自己中心、營利第一主義の人生觀を建直し、神中心、奉仕第一主義の靈的生活に更生して、人類生活の維新を叫ぶ我新興生活館は、この新しい人生觀に出發した「來るべ

き新興農村」の模範的經營を、靜岡縣田方郡函南村上澤で試みやうとしてをります。

それは人間の生活が、正しい軌道に乘つて來れば、遲かれ早かれ生れるであらうところの、また生れしめなくてはならない筈の農村經營であります。この來るべき新興農村をまづ生れしめて見やう、と云ふところに新興生活館農村部の使命があります。

私達同人は先づ同人で生活組合を組織し、頭腦聯盟に依つて考へ、更に人類の實生活を研究調査し、それを農村部で實行實現して、然る後に廣く天下に公表せんとしてをります。故に農村部は非營利的であり、試驗場的であります。

かくてそれをば、すべての人々に、各々の鄉土に實行していただき、共に勵まし合つて、我が農村を、我が鄉土を、我が祖國を、立派にさせたいのであります。

農村部の經營方針

そこで生活組合の構成員である七人の住宅を新築して、七家族が住みこみ、模範的生活組合により、凡ゆる作業と生活を、協同實行研究するのであります。この七家族、卽ち新興農村部落民

は相互に協力して、農家經營、農村生活はかくあるべきだと云ふものを、作りあげたい念願に燃えてをります。又農村文化研究所經營と同時に、我國農村文化の中心になつて、働き得る青年男女の養成をも目論んで居ります。

土地は約十町歩でありますが、將來は擴張する豫定であります。しかして特に強調したいのは、この土地の所有者は新興生活館であり、農村部の同人七家族がそれを小作すると言ふ形をとり、つまり模範的地主小作人の農村經營を研究する點であります。これを圖示すれば上圖の

如くで、新興生活館(財團)を中心に、各同人が十町歩を經營するのであります。そしてこの七家族で、完全な自給自足經濟を實行せんとして居ります。

又第八章で述べた如き協同化を實現させるために、一部分の土地を共有にして、これを協同經營し、一部分を七軒で各々私有し、そこで各同人專門の研究をするやうになつてをります。地主の地位を占める新興生活館では、從來の如き地主でなく、小作人たる同人達の研究を助成し、或は設備をほどこし、全部が一になつて新興農村の經營に當るのであります。

さて、ここの經濟生活は自給自足經濟を本旨といたします。租稅の如き、やむにやまれぬ必要な現金を得る限り交換經濟に入るのみであります。他はすべて村で作つたもので濟まします。どこまで自給化出來るか、どの程度まで簡易生活ができ、しかも內容の充實した喜びと平和な農村生活をなし得るかを、研究いたしたいのであります。

從つて生產方法も出來るだけ多角化して、米、麥、大豆、小豆、玉蜀黍、甘藷、馬鈴薯、ソバ、野菜類、花卉類、柿、栗、牛、鷄等。加工作業としては味噌、醬油、ソース、漬物、ハム、パン、製粉、果實酒、飴、豆腐、等に及ぶ計畫であります。

以上の如く自給化を實現するには、どうしても同人がそれぞれに通じて居る必要があります。こゝに一人一研究の必要を生じてくるのであります。協同作業をする場合にも、例へば漬物をする時は、甲さんが專門家であるから甲さんの指導で行ふ、さうすれば七軒全部が一番うまい漬物を食べることが出來ます。各種の作業について、誰か一人專門家があれば、これを皆に敎へ分つ、そこに協同化の利益があり、生活組合の頭腦聯盟たる理由があります。

さきに農村部經營組織の點で、一部を協同化し、一部を私有化した理由も、實はこゝにあるのであります、私有地では同人各々が專門の一人一研究に專心し、ここでその道の權威者を養成しやうと試みてゐます。講習生なども協同的作業を學ぶと同時に、この一人一研究につき親しく敎へを受け、更にそれを研究完成するやうにする豫定で、一人一研究の的々相承であり、農村敎育の一つの新軌軸たらしめんと思ひます。

農村生活に必要な知識、技術はすべて專門家たる同人が親しく敎へてくれる、かくの如くなれば、高いお金を出して遠く子弟を學校にやる必要がどこにありませうか。

農村生活の一人一研究が、即ち農村の學校化たる所以はここにあります。我が農村部では、こ

の點でも模範的存在にならうと、同人が互ひに相務めをてります。

新地主論

近代の農村問題は、主として小作人を中心として研究されてをりましたが、土地所有者たる地主のとるべき態度について、閑却されがちであつたのは遺憾でありました。我農村部では、地主として將來いかに處すべきかについて、特に研究し、實行する計畫であります。

元來、地主小作の關係は、親作小作と言つて、親子關係の如く親しいものでありました。德川時代まではこの關係が比較的存續いたしましたが、近代の交換經濟、都市經濟が農村に侵入するにつれて、この親しい關係は一變して、對立關係となりました。

第一に、都會の贅澤生活が入つて來て、地主は土地からの收入をそれにあてるやうになつたこと、つまりその土地以外の生產品を消費するため、土地の收入が外へ、主として都會へ吸收されるやうになりました。

第二に、土地からどしどしとり立てゝ、それを都會の有利な產業に投資し初め、農村に於ける

資本を涸渇せしめたことであります。かくて土地所有者たる地主は、土地はただいかに多く收入をもたらすか、と云ふ限りに關心を持ち、甚だしいのは都會に移住し、所謂不在地主と云ふ名も生ずるやうになつたのであります。こうなると土地からの收入を租税の形に於てすら農村へ還元せず、全部を都會に持ち去るので、極端に申せば農村資本の奪略とさへ言へると思ひます。これでは農村が亡び、地主對小作の間に、協調して農村文化建設と云ふ如きことは全然望めません。

我が農村部では、かゝる弊害を改め、眞に農村のためになる善良な地主の態度を研究し、やがてそれを全國に普及させたいと思つてをります。

新興農村の地主は先づ、地主小作の親和であります。小作から見た地主、地主から見た小作、共に感謝の生活を送ること、これが理想であります。

それには地主はどうすべきでせうか。他でもない、地主が都會の資本家生活をやめ、農村人としての自覺に生きることであります。農村から資本を奪略して都會へ投資することをやめ、それを農村へ還元するのであります。元來地主は、智慧に於ても、時間に於ても、勞力に於ても、富に於ても、餘裕のある人であります。この餘裕ある部分を農村のために使ふ、これが新興地主の

とるべき態度であります。我が農村部ではこの點を考慮して、地主たる財團が、率先して農村經營の研究をなし、各作業の勞力の配分、新設備の補助、新研究の講習等を行ひ、小作人たる七人の同人をして、完き農村生活を營ませようとしてをります。その一つの試みとして、わが農村部では、軟化窖、地形利用室、ペーパーハウス、共同作業場、共同浴場、家庭倉庫、農產加工場、クラブ、等の設備を財團がほどこして、各組合に利用させております。

近頃、地主の窮乏化、倒產等をよく耳にしますが、それも畢竟農村人たる地主が、都會へ侵出し、都會風の生活をし、金儲けを人生の最高理想としたがためであります。この人生觀を改め、新興農村人としてめざめ、農村のことは農村人の手で、と云ふことを中心に、農村人が一致協同して、愛と奉仕生活をなし、農村文化を建設せんとする大理想に使命を見出してこそ、現代農村地主の生くべき道が開かれるのであります。

附記

私は農村經濟更生の重要性を、もとより認めます。

農村經濟に、より勝れたる組織と計畫を、與へて、農村、農家を、今日の經濟苦、生活苦から救ふことは、最も大切なことでありませう。

けれども、經濟更生が農村問題の全部であるが如き態度や考へ方には、あきたらぬのであります。

このことは、單に農村問題だけに就いて云ふことではなく、もつと一般的、卽ち人間生活そのものから考へてみても同じことです。

人間生活には、幾多の部門があり、經濟生活はその一部門にすぎません。

人間生活に於ける經濟生活の位置を言ふならば、みかんや栗の皮に相當する處であります。私共の食べたいのは、その中味であつて外皮ではありません。けれども外皮を處分することなしには、食べたい中味に及べない、それで止むを得ず外皮を處理するのであります。

中味を食べることを忘れて、外皮の處理ばかりに、あくせくしてゐる人があるとしたら、それは餘程の大馬鹿者と云はねばなりません。

それと同じことで、人間はとにかく、食つて着なければ生きられぬ運命に置かれてゐます。それで止むを得ず、食つたり着たりするのであつて、食ふこと着ることとそれ自身に、人間の人間たる所以があるのではありません。

けれども、ここから處理してかゝらねば、安んじて人間の人間たる所以の生活に進めないから、先づ經濟生活の解決に向つて、力をつくすわけであります。

それ故、經濟生活がうまく行つたからとて、それだけではなにも人間としての誇りではないのであります。

ところが今日の世間一般は、經濟生活を人間生活の全部と見て、衣食あまりあるに至れば、その人を直ちに成功者と目するのであります。何たる皮相の人生觀でありませう。

かゝる皮相な人生觀から脱して、その奥にある人間そのものにふれんとするのが、新興生活であり、新興農村運動も、根本原理はこれであります。

新しき農村文化は、物質經濟本位の上にでなく、生活本位といふ土臺に、建設さるべきこと、それが農村本來の姿であり、また永久に變らぬ眞理と考へるのであります。

本書の目的

したがつて、私はまづ本書に於て、農民は本來如何に生くべきか、農村は畢竟どうなればいいのか、といふ點を中心としました。それ故、その理想郷へ至る道程に横はるいろいろな障害物の除去等や、間違つた指導による惡結果のあとしまつ等について、一つ一つの具體案をのべませんでした。

要するに本書は、新興生活運動の概論とでも言ふべきで、これを中心に、農村部で今後實驗研究した種々の成果を各論として、順次、農村食の研究、農村加工、衣服、生活組合等に分けて、報告をなす豫定であります。

なほ、農村文化建設の最大障害物たる、負債問題や教育問題についても、筆を改めて述べるつもりであります。

農村文化の建設座談會

出席者

高橋刀畔（大日本聯合青年團顧問）	山下信義
永野健（千葉縣小御門農村校長）	岸田軒造
中田正一（久慈國民高等學校教諭）	濱田壽一
	渡邊竹四郎
	高良富子
	加藤善德

農村文化とは何か

渡邊 編輯部長として、一言御挨拶申上げます。本日はかねて豫定してをりましたゝめに、急に變更するわけにも參りませず、この非常時に、しかも危險區域の眞只中で、この座談會を開くことになりました。何にしてもこのビルデング内の事務所では、みな午前中で切上げてゐるやう

な場合でもありますので、なるべく時間を切詰めて、やれるだけやり度いと思つてゐます。この雪空に、御遠方からわざ〳〵このことのために、お出で下さいました三先生に、衷心から御禮申上げます。國をあげて嵐の中を行く今日、私共はこれから暫くの時を、農村文化の建設について考へてみたいと存じます。便宜上加藤編輯主任に司會を願ふことにいたします。

加藤　最初に、山下先生から、先生の平素主張してゐられる、農村文化について、概論的な御話を伺ひ、それから農村文化の建設についてお話合ひを頂きたいと思ひます。それでは山下先生どうぞ——。

山下　農村文化の建設といふことが、如何に大切なことであるかといふことに關して、一亘り私の考へを申上げてみたいと思ひます。特に今回、私共が全生命を注いでかゝつてゐる、新興生活館の農村部が、このために生れたのでもあります故に、充分皆様の御批判なり、御忠告なりも伺ひたく存じます。

農村問題の重要性といふことは、もう新聞に雜誌に云ひ古され、叫び盡された觀がありますが、たゞ私の考へから申しますと、どうも今日までの指導者といふ人々の、この問題の重要性に關す

る認識が、不充分であるやうに思はれるのです。

例へて申しますと、救農土木事業といふ言葉がありますが、——私は實にこの言葉位嫌なものはありません——まるでルンペンか、失業者か、立ん坊と同じやうに、窮農といふものを考へてゐるやうに受取れるのであります。氣の毒な窮農といふものがある、なんとかこれを救濟してやらうといふ風に聞こえる。また農村救濟といふ言葉もありますが、これにしても、さういふ言葉を出すその心持ちをつきとめると、厄介な貧民窟、放つておくとそこから傳染病が擴がつてくる、掏摸やいろ〳〵悪い奴が出て來て、社會に害毒を流すから何とか救濟しなければ——と、こういつた氣持を感ずるのです。

ところが、私達が今、農村のために、ホントに全生命をぶちこんで働かうといふのは、そんな淺薄な意味ではない、農村と農業とが滅びれば、人類が滅びてしまふぢやないか、といふところから出發してゐるのであります。即ち、農村が滅びれば國家が滅びるのです。農存するところ國存し、農滅ぶるところ國滅ぶで、農なくして人類の成長はありません。この意味に於て私共は、今日の農村を憂ふるとともに、このことのために全生命を捧げて働かざるを得ないのです。

試みに考へてごらんなさい。所謂職業の中で身體からみても、精神からみても、農業程明朗健全なものがありますか。肉體の爲めにいいことは申すまでもありません。精神の方面に於ても、百姓には誤魔化しも疑ひもありません。今日の商業では、嘘をつかねば中々商賣が成立たないと申します。成る程「魚屋さん、このお魚は新しいですか？」と聞かれて、「いやこれは一週間許り前のです。」などといつたら、賣れやしますまい。また呉服屋さんで「この着物は、幾ら洗濯してもあせませんか？」「いや、一度洗へばみな色」が落ちます。」などといふことでは、商賣が成り立ちますまい。昔から「紺屋の明後日」といふ言葉がある位で、工業方面にもそれがあります。百姓はそこに行くと、嘘をつく必要はありませぬ。草を取らないで取つたといつても、草の方でチヤンと生へてゐるから仕方ありません。肥料をかけずにかけたといつても、植物の方で納得してくれませぬ。實に大自然を相手に偽らずにやつてゆくのは農業で、農業を除いたならば人類は身體も心も滅茶苦茶に崩れてしまひます。さういふ意味に於て「農は國の基なり」と云ふのです。原料を出すからといふ意味だけでなく、そんなことよりも大切なことは、人間といふものは、此處に來なければ修練が出來ないのです。現に昨年の如きは、それを痛切に感じました。それは私

のお世話してゐる學生ですが、突然大病で倒れました。將來非常な望みを持つてゐましたゞけに、私としてはこの時たまらない感じを抱いたのです。それで田舍にやつたところがどうです。一年經たぬ中に身體がうんとよくなつた。昨年はさういふ例が二人までありました。私はこうした意味に於て、農村といふものを減してしまふと、人類が滅びてしまふといふのです。これを私は農村問題の重要性として考へます。

高橋　さうですね。從來の指導原理は全く間違つてゐました。

山下　ですから、我國現在の農村は、今のまゝに放つておいたんでは、滅びる他にないといふ道を辿つてゐます。一例をとりましても、益々農村の青年男女の離村率が增加してをります。頭のいい、體のよいのが、どんどん外に出てしまひます。早い話が此處にこれだけ有爲の青年がゐる（館員を見廻して）これより小さいのは、親が養はなければならない。働き盛りのこれらの人が、皆田舍の出身者です。この農村青年の離村率は、實に驚くべきものです。

田舍へ行つてごらんなさい。今日はもう男も女も結婚の相手が中々ない。百姓で女房を貰はふとすると、一割も二割も損な女房しか貰へない。安月給でもなんでも月給取りならいいのが來る

けれども、百姓は實に困難です。また金のある人間は、やはり外に出て、農村には投資をしない。資本はます〳〵都市に集中さてゆきます。

このまゝで行けば後に何が殘るかといへば、少し極端かも知れませぬが、田舍は貧乏人と頭の惡い者許りになつてしまひやせぬかと思ふのです。貧乏人でも顏のいいのは、カフェーの女給になつて行きます。（哄笑）こういふ風に、今日のまゝで進んだならば、農村はいよ〳〵おかしなものになり、滅びるより外に道がなくなることを心配するのです。

加藤　さうした行き詰りの根本原因はどこにあつたのでせうか。

山下　それは近代文明の所產です。近代文明の思想的背景をなすものは、アダム・スミスの富國論と、ダウキンの進化論です。アダム・スミスは申します。『我等は人間の道義心に訴へて事を進めんとは願はない。むしろ、人間の利己心に訴へて、事を進めんことを欲する』と、大膽に道德無視の主張をして、指導原理としたのであります。

新聞を暗い中持つて來るのは、人が喜ぶから持つて來るのではなくて、さうしなければ買手がなくなるから、暗くても辛くても、持つて來るのです。また牛乳屋だつてさうです。これが富國

論の一貫した原理なのです。

またダウキンは、凡てのものがこんなに進んで來たのは、生存競爭、適者生存の故であつて弱肉强食、優勝劣敗が行はれたからである。だから彼は、勝て勝て、敗けるな敗けるなと民衆を使嗾したことになります。ですから近代文明は、こうした指導原理から導き出されました故に、極端に個人主義利己主義になつてしまつたのであります。

人間は不道德になれば、精神生活が滅じます。そしてたゞ衣食住にのみ心を奪はれてしまひます。きれいな着物を着、うまひものを食ふことの出來ぬ人が人生の失敗者、金を貯めた人程成功者となるわけで、金錢至上營利第一となつてしまひます。

高橋　ですから百姓はつまらぬとなるのですな。

山下　さうです。人生の勝負が金によつて決まり、成功不成功がそれによつて決定するといたしますと、百姓程儲からないものはありません。都會に出て相場でもやれば、まかり間違へば大した人間でなくとも、百萬長者になれるかも知れない。然し田舍では間違つてもなれやしません。今日內務省や農林省の統計を見ましても、農村の純益は實に低い。假に千二百圓の收入があつて、

經費を差引いて百二十圓殘つたとしても、——それすら困難でありますが——一日に三十三錢にしか當りませぬ。大の男が朝から晩まで、眞黑になつて働いて、それが三十三錢のためだとあつては、頭のいい人は、成程百姓はつまらないと去つてしまう筈であります。これは當然のことです。では一體その對策はどうしたらいいか、といひますと、農家の目標を全く變へなければならないのです。卽ち從來の金儲け本位から脫却して、生活本位に轉向するのです。

云ひかへますと、從來の農政は、生產本位でありました。それが今日の如く行詰らせた原因なのです。農村問題の眞の解決は、生活本位でゆかなければ解決し得ません。

ですから農村文化の建設は、この生活本位といふことを基調として、組立てられなければならないのです。卽ち、農村民以外の人の生活は自分の働きを一旦悉く金に代へて、その代へた金を以て生活必需品を買ひます。然し農村民は、自分の力で直接それを作り出すのです。そこに特徵がある。この特徵を捨てゝ、農村民以外の人と同樣の生活をするとき、農村民は生活の敗慘者とならなければなりません。勿論こう申しましたからといつて、農業一切の進步を否定して、昔に還元するやうな自給自足を主張するのではありません。私共の主張する自給自足多角形農業は、

一切の文明進步を取り入れる迄の、綜合的自給自足、綜合的多角形農業なのです。

從來の農業政策、農村行政は、米、繭其他の農產物の增產改良といふことにのみ重心をおいて、それらの物を作る農民の生活といふものは一向顧みませんでした。今日の農村問題は、それらの生產問題であるよりも、より多く農民の生活保障の問題なのです。如何に生活を向上せしむべきかと、大問題なのです。我々は農業生產所得の增大を計らんがための產業組合運動を必要とすると同時に、農村民の生活を農村民的に向上せしめんとする、生活組合運動の急務を力說したいのです。農村文化は、この生活組合運動を通して、始めて建設されるものだと思ふのです。生活館誕生の意義も使命もこゝにあります。

加藤　生活本位の農村文化が、不健全な都市文明を驅逐するために、農村に持たなければならぬ具體的なものはどんなものでせうか。

山下　農村生活を先づ魅力あらしめることですね。神樣の前で、どちらが正しく生きてゐるかといへば、百姓は、勿論商人にも、お役人にも負けない生活が出來る、けれどもそれだけではどうしても一般を引きつける力が足りない。今日農村に行つてみると、花一つない所がある。金本

位になつてしまつたので、花より團子と田畑を作ること許り考へ、農村が干からびてしまつた。また三百六十五日、のべつまくなしに、たゞ働け働けで働かせる。疲れた心身からは決してよきものが生れては來ません。すぐれた弓の名人が、絃をはづして休ませるやうに、人間も一週一度は休まなければならない。いや休むのではなく、六日間に一日分働き出すのです。

今日「花より團子」主義は「花も見よ團子も食へ」と訂正しなければなりませんし「詩を作るよりも田を作れ」は「詩も作れ、田も作れ」と出來るだけ農村生活を、趣味化せねばならぬと思ひます。農業は生活必需品を自分で作るのですから、私共はそこに目覺めて、いい生活をつくるべく努力することですね。現に野菜の如きでも、東京の市場に行つてみると、種類がきまつてゐる。ところが我々の家で、所謂野菜を本當に心掛けてゐれば百種位のものは支度し得られる、即ち非常に豐富なものが出來ます。ですから田舎では、いくらでも珍らしいものが作れます。都會では本當においしい果物が食べられませんが、田舎では食べられます。無果花など、都會に出すときは、まだ若い中です。あゝしたものは成熟期までおかなければ、ホントの味はわからない。苺だつてさうです。鯉を飼ふことも、菜種を作つて油を搾り、天麩羅をやることも出來る。決し

て、物質生活だつて、都會に負けやしないのです。水はいい、空氣はいい、人情はいい。

明治維新の志士が、「世の中ののどけかりせばかねてより、身は花守となりなむものを」と詠じてゐますが、グラツドストーンも、晩年を田舎で送つてゐます。政治家も學者も金持も、晩年は田舎で送つて貰ひたい、老ひぼれぬ先に、田舎に來て貰ひたいと思ひます。

加藤　青年の離村については——

山下　私はすべての青年よ田舎にとゞまれとは云はない。金儲本位の青年よ、どうか田舎を去つてくれ！　だが眞に人類を思ふ人々よ、お互ひに田舎にふみ止まつて、一緒に苦勞しやうよとこういふのです。

料理の如きも、何能村料理研究所といふものを作つて、我が家の工夫した農村料理を持ちよることによつて、我が村の料理を改良し、チヤンと何月料理といつた具合の農村料理十二ケ月の献立表をつくる、こういつた具合に農村生活といふものが、誰から見ても氣持ちがよいといふやうに本當に人を引つけて行くやうにしたい。生活館の農村部は、こうした意味に於て、人間生活はこうありたいといふ小さな模型を作り上げたいと思つてゐます。こういふ意味に於ける、農村文化

であり、その建設を力説したいのです。

農村文化建設の障碍

加藤　農村文化建設のポイントは、金儲本位を生活本位に、建てかへるところにあるといふことのやうに伺ひました。この農村文化建設の障碍になるもの、例へば今日農村の惱みの種である借金のやうなものが、たくさんあると思ひます。そこから吟味して參りたいと思ひます。高橋先生一つどうぞ。

高橋　今迄の指導原理は根本から間違つてをりまして、農村更生はたゞ金を如何に儲けるか、こうしたならばいくら儲かるといつたことを眼目にいたしてをりました。私、先日千葉縣の中堅青年を集めた講習會の折に、その會場の藻原寺で歌を詠みましたのですが、こういふのです。

「百姓をいやしき業とあやまれる人生觀の立て直しせよ」これを深く考へますことが、一番肝心だと思ひます。この農村の貴い所以を、殆んど十人が十人分つてをりませぬ。たゞ金を儲けることにのみあくせくいたしてをります。

そこで農村文化建設の障碍になります具體的な例を擧げますならば、今日の教育が根本から惡いと思ふ。私の居住地であります千葉縣香取郡の滑川、そこに鐵道が敷設され、上と下とに佐原成田の兩町があり、中學も女學校もあります。この滑川驛から、兩方の女學校に通學してゐる女生徒が、六十餘人あるのですが、その娘たちを調べて驚いたのです。みな農村から出てゐる娘達なのに、百姓は嫌だ、農業は嫌だといふ者が六十人あつたのです。全部といつてもいい位が農村忌避者なのです。親はいづれもひどい工面をして、小作米の未納をしながら、可愛い子供を女學校に出してゐる、その女學校は農業といふことにはちつとも重きを置かず、娘達が頭を痛め憂身をやつすのは英語であります。そしてこれらの人々の理想は、先程のお話にもありましたやうに安月給でもよろしいから月給取に嫁ぎたい、嫁がせたいといふ考へであります。こういふ教育とそ農村子弟を害するものであることを、私は痛切に感じてゐます。

加藤　農家負債の問題は——

高橋　私の滑川町でも、平均して農家一戸當り千圓近い負債を持つてゐます。これはどうしても整理して根本から立直さねばなりません。私の近所にも、相當な小地主階級で、田畑を六町五

反許り持つてゐる方があります。この農家について調べてみますと、一萬八千圓の負債があるのです。そこで何とかして助けたいと思つて、土地を處分して償却整理することを、數回に亘つてすゝめたのですが、本人が應じないのです。こういつたやうに、農村文化建設の一番の障碍は借金であります。どうしても農家は土地を惜しむ、金さへ出せばいくらでも買へるのですから、一旦賣つて新規まき直しにして、相當餘裕の出來たところで買ふことにして、思ひ切つて整理しなさいとすゝめるのですが、なか〳〵應ずる者はありません。

山下　教育の缺陷と負債の整理、これが障害の大なるものだと思ひます。

山下　全く御同感です。實際今日の學校教育を受ければ、百姓は嫌になつてしまう。今日の女學校はお姫様のやうな扱で、家では親父が肥桶をかついでゐるのに——全く今日は眞劍に教育を考へなければならない時です。

教育は如何にするか

高橋　そこで私は思ふのですが、農村の子女だけを教育する女學校、麥も作れば水田も經營する

る、さうした學校をたくさんつくりたいものだと思ひます。千葉縣に一つありますが、私は縣下の中等學校の半分位は、あゝしたものにしたいと思ひます。

山下　高等女學校となると志願者が押しよせるが、實科女學校だと入り手がない。これは特別の人があつて、小規模でもいいから、さうした仕事をやるといい。こういふ意味で農村文化の指導者養成といふことも重大な問題となつて來ます。農村部の農村文化研究所並びに聖農學園ではさうした人物をつくりたいと思つてゐます。

加藤　農村青年の教育者としての立場から、永野先生一つ。

永野　教育といふことは、教へるといふことでございませうけれども、もつとよく考へてみると、教へる人の人格の感化であると思ふのです。私自身、隨分教育を受けて參りましたが、本當に今眼を閉ぢて考へてみて、心から有難かつたといふ先生は、自分の頭から離れませぬ。どういふ字を教はつたとか、どういふむづかしい數學の解き方を教はつたとかいふ事でなしに、その人の人格が常に頭の中に描ける。隨つて教育といふものは、誤魔化しでなくして、本當に先生そのものゝ人格の感化でなければならぬ、こういふ意味からいたしますと、それが青年學校であらう

と、國民高等學校であらうと、名前は何であつても結局は人の問題に歸結すると思ふのです。さういつた人格と信念とによつて、人を敎へて行くのでなければならぬ。結局敎育は敎師と生徒とから成り立つ、その生徒の素質がどうかといふことが、敎育の効果であります。假に數字で申し上げるならば、先生の方は五十點、生徒は五十點、イコール百點。この先生の方の五十點を假に分解してみるならば、素質が二十五點、努力が二十五點、又生徒の方も同樣で、結果が百點になるのではないかといふ考へ方。もう一つは、精神の方が五十點、物質が五十點、イコール百點といふのがやはり學校敎育として現はれるのではないかと思ひます。この精神といふのも無論先生の持つ信念と生徒が持つ信念、そこに適當な物質を考へさせて頂きたいと思ひます。

こういふ意味から言ひますと、現在の農學校は中學校或は女學校と比較いたしますと、非常に經費も少いし、來る生徒も生徒の方からいへば、非常に經濟に惠まれない生徒が來るわけです。なか〳〵思ふやうな敎育も出來ませんけれども、校長は校長としての人格を誤魔化しでなしに高め、生徒は生徒としての素質が悪いにせよ、そこに二十五點の努力を加へれば、或意味の人格をつくることが出來ると思ふ。

こうして學校だけで、先生と生徒、また物質がうまく出來ましても、對外的方面、殊に監督官廳などが中學校に力を入れても、農學校には左程でないといふのでは困ります。どうも現在は、その困る方なのです。我々は眞劍に農村を再建しなければ、眞の文化は滅びる、人類が滅びると如何に思つてゐても、監督官廳方面でやはりさういつた氣持で應援してくれるのでなければ、文化といふ方面に敎育が役立つことが幾分少くなると思ふのです。青年學校もこうした點で、今後非常にむづかしい問題があると思ひます。

結局は、あれは實にいい學校だと、萬人から見られるものをつくつたら、一番手つ取り早く効果があるんぢやないかと思ひます。

加藤　濱田先生、學務部長としての御體驗から、農村敎育の革新について、お伺ひしたいと思ひますが。

濱田　何よりも先に、農村に於ける敎育理想の確立が必要だと思ひますね。そしてあくまで人物敎育で行かなければならぬと思ひます。これがためには、眞の農村敎育者を作り、また發見せねばならぬとも思ひます。

第二には、現行の教育制度や學校組織また內容等は、地方の事情もありませうし、教育者自身の理想と人格とを活かすためにも、もつと廣範圍の自治を認めることが必要です。さうして今の學校は、そのまゝに農村塾であり、農民道場であり、農村生活研究所であり、科學的實驗所であらしめ、幼稚園から農村大學までの、綜合的教育殿堂とせねばならぬと思ひます。

加藤　廣範圍の自治と申されましたが、勿論經濟方面までも含めてゞございませうね。

濱田　さうです。農村に於ける現在の實業學校に、經營的にも財政的にも、相當の自治を許して、學校そのものが、やはり一つの經濟的經營單位とすべきです。そしてそれを法令制度の上で認むべきだと思ひます。其他、各種の經濟機關、農事團體等も、產業の教育化の建前から一つの學校として觀念せられ經營される必要があります。

もう一つ申上げたいのは、所謂鍛練的教育についてです。これは第一次的の方法として必須のものではありますが、終極の目的ではありません。あくまで、獨創的能力や、組織立つた經營的才能等を自由にのばすために必要なのです。そこを忘れてはならぬと思ひます。人間は單なる機械的勞働のみでは滿足出來ません。そこに高い人格的理想が宿り、深い理性的反省も加はらなけ

れば生命はありません。ですから、勞働がはげしくなればなるほど、それに併せて靈的な精神的な養ひが必要です。特に勤勞教育の實施をする場合には、充分な注意を必要とします。

加藤　岸田先生、先生が長年御經驗なさつた夜間實業教育の立場から——

岸田　農村の人々が都會に出て行くには二つの理由がある。その一つは娯樂がない、今一つは教育を受けられないと云ふ事です。成程、娯樂の問題はさておいても、教育を受けられないと云ふのは、青年にとつてはやるせない悲しみであります。併し、果して農村で教育が受けられないでせうか、少數の學者はいざ知らず、大地に立つて働く實務者に取つて一番必要なのは實地の技です。實地の腕と學問と兩方兼ね修めるのに一番よいのは青年學校です。例へば——私は都市の青年學校にしか居なかつたが——私の學校にMと云ふ青年がありました。彼は小學校を卒業して直ちに商店の店員になり、夜青年學校に來て勉强し、二十歲にして縣立商業卒業と同等の免狀を取りました。今一人のKと云ふ青年は、尋常六年を終つた丈で、直ちに電機工場に入り、夜私の學校に來て勉强し、二十五歲にして遞信省の電氣事業主任技術者第二種の免狀を受けました。これは官立の高等工業學校卒業者が受ける免狀と同等のものであります。技能の力と學問の力と總

合計に於て、これ程力ある人物を何れの縣立商業學校、何處の高等工業學校が造り得るか。勿論これは全部ではないけれども、兎に角部分的に言ふならば、青年學校は他の如何なる學校でもが造り得ない人物を造り得るのであります。

農業に於ても同樣です。早い話が大日本聯合青年團で表彰した百數十人の篤農青年を見るに、農學士や農學校卒業者は甚だ少く、大多數が小學校のみで直ちに實務に從事した者であります。これを見ても、如何に働き乍ら勉强すると云ふことが偉大なるものであるかを知ることが出來る。私は、大學に行くことを決して惡いとは思はない。けれども、家庭の事情で行けない人は、田舍に於ても充分の勉强をなし得る。そこでろくな人間になり得ない者は、都會の學校に出ても大したものじやない。要は魂の問題です。魂のしつかりした人間ならば、田舍の山の奥でも充分に自分を伸して行くことが出來ます。

さて、今度は管理者側の人々に考へて貰ひたいことは、現在の青年學校が、果して彼等を導くに足るかと云ふに、遺憾乍ら今日い〻青年學校はまだ少い。これが教育上の重大問題であります。これを改善するにはいろ〳〵ありませうが、一番大切な問題は、各村の青年學校に、少くも一人

の專任の實業教員を置くと云ふことでこれが絶對的の問題だと思ひます。小學校の先生が片手間にやつて居る樣な事で、い〻ものが出來る筈がありません。しかもその專任教員たるや、この教育が國家をよくし國民をよくするため、極めて重大な事業であることを信じ、このために命をも捨てる位の覺悟で奮鬪する熱誠なる教員でなければならない。今日この樣な良い教員がなか〳〵得られないが、市町村の管理者は、この樣な教員を得る爲めに、思ひ切つて俸給を出すべきであります。このやうな考へを以て、一方は青年を勵まし、一方は市町村の管理者に青年學校の改善をおすゝめしてゐます。

加藤　農村文化の建設の基礎的條件は、新らしい生活的な教育によらなければならぬといふ意味に今迄伺つて參りました。從來と行き方を異にした、新興農村教育が、澎湃として全日本を席捲する日が待たれます。中田先生、その新興農村教育の代表的存在としての、久連國民高等學校についてお話いたゞきます。

中田　やはりどうしても人の問題だと思ひます。實際生徒と一緒に寢起きしてみますと、始めて百姓嫌ひになることも、村を飛出さうとするのも、無理はないと思ひます。全く農村が干から

びて、魅力がなくなつてしまつたのですから。私の學校には、十八歳以上の人が來てゐるのですけれども、ちつとも精神的方面を要求せず、たゞ技術的方面のみ要求いたします。大工でも、左官でも、年期奉公すれば一人前になれますが、百姓は腕として、一人前といふことがはつきりしてゐませぬ。青年學校や何かでも、精神と同時にもつと〳〵腕の上に力を入れて行かねばならぬと思ふ。經營も技術も、これから相當頭がよくなければ難しいのぢやないかしらんと思ひます。篤農青年といはれてゐる人々をみても、たゞ眞面目と云ふのみでなく、科學的なことを非常に自分でも一生懸命勉强してゐるやうです。

渡邊　先生の學校と村との連絡はどんなでせうか。

中田　學校が村の產業組合の一員になつてゐます。

渡邊　では學校の先生であり、また村の先生でもあるわけですね。生徒は何名ですか。

中田　只今は十五名です。

渡邊　結構ですね。

中田　一人前の腕が出來れば、出てゆくやうにしてゐますから。

渡邊　村の處女とか主婦とかを集めて、衣食住の生活指導をなさつてゐますか。

中田　學校主催でいたしてをります。

加藤　高良先生、先程からだいぶ現在の女子教育に非難の聲が飛びました。先生の御批判を願ひたいと思ひますが。

高良　農村文化を高めるなら、本當の近代技術といふものを取入れてゆく、大きな態度が必要だらうと思ひます。女學校の教育に就いても先程からお話がありましたが、皆實科女學校に行かないで、高等女學校に行くといふところにも、買ふべきものがあると思ふのです。勿論私共女子教育にたづさわる者として、充分反省しなければなりませんが、もう一歩先に教育者が出て指導して行かなければならないと思つてゐます。

今日の女學校は、本當に婦人の生活能力を利用してゐないと思ふ。若しこれを正しく使つて行けば、流行の着物を買ふと同じ考慮を一つ轉ずれば、自分の農家の庭に野菜を作つたり、或は麥や豆の改良、或は植物の智識を利用して、いろ〳〵な農產物を改良する、進んで織物、染物等の加工等、非常に豐かな創造的生活が、つまり農家といふものを中心にして育てる興味をつくつて

行きさへすれば出來ると思ふ。そこまで女子教育を發達させなければいけない。既にさういふ傾向が見えてをりませうが、決してこれは今日の階梯に止まつてゐるべきものではなく、指導者が新しい智識をどん〳〵取入れて行つたらと考へるのです。進んでは、ヨーロッパやアメリカの婦人達のやつてゐるやうに、農村の多方面に亘つて、面白く樂しくやつてゐる、藝術生活も美しく取込んでゐるあのやうな時代が、日本の農村にも來なければならぬし、また來得ると信じてゐます。

山下　全く御同感です。女子の創造意欲をうんと振興することは、非常に大切なことゝ思ふ。靜岡縣では、毎年何でもいゝから一ケ年間に於いて實行した改良改善を懸賞募集してゐる。それを審査して賞を與へ、印刷して配布してゐる。みな非常な熱心を以てやつてゐる。一度始めると、なりもふりもかまはずに、本氣になる。さうした一人に、献立を研究してゐる方がある。その周圍の人々も、まるで流行を追ふやうな熱心さで、それに捲きこまれて、村の料理が改善されて行く。

今日の娘さんは、相當の教育を受けてゐるから、自分自身の頭で何か研究するやうに、一寸指

導すれば、中々よいものが生れると思ふ。さうした人々を財的に應援する人がて來れば、それが勃興する可能性は見えてゐます。

衣食住・農産加工

加藤　農村文化建設の立場から、衣食住の問題につき御意見を伺ひたく存じます。

渡邊　山下先生のおつしやる村の料理、あれを娘たちや主婦たちが集つて、研究しつゝ食べる、さうした日を、今日の農村に早く與へたい。さうした折に着るものも、制服で欲しい。揃ひの農村婦人の作業服を着た婦人たちが、時には御馳走を食べながら、自分たちで鄕土藝術をやる位のことは、是非ありたい。

それから今の農學校に、もつと科學的な智識を普及させ、もつと文化的施設を施して、それと同時に今の女學校に農業科を設ける。これは農村にも都會にも、おしなべて農を尊ぶ精神を養成する。それには人物が必要であります。この人物をつくる場所がありません。

今一つは金の問題です。虛榮心とか贅澤とか云ひましても、今日の農村の者を引張つて行くに

は、女學校に負けない農學校が欲しい。それには金が要るんです。まあ十年でもいいから、相當な人物に或一定の金を預けて、かくすればかくなるものだといふことを、やらして見る必要がある。これらは方々でやりかけてはゐるやうですけれども、兩方揃つたものはない。農民道場が方々に出來るけれども、人物がないため縣廳のお役人などが行つて指導してゐる。もう失敗です。鐵筋コンクリートの學校を建てるけれども、中の校長は百姓する氣はない、月給取です。どうしても私の切なる願ひは、これぞと思ふ人物が充分の金を與へられて、思ふ存分農村の子女を敎養して、十人でも二十人でもいゝから、こうすればこうなるといふことを、如實に見せつけて貰ひたい。我々の農村部も、この仕事と、この役割を果したいと思ふのです。

高良　いゝですね。女子の學校にも、是非農業科を設けたいものだと思ひます。

渡邊　今日の敎育者は、農村の實際を知らなすぎます。冀くは我農村部は、青年敎育者の修養道場であらしめたい。農村の敎育者に百姓嫌ひが多い。それ等の人に、農村を復活させる力はない。少くとも鍬を取つた經驗のない者によつて農村の敎育は出來ないから、あゝした風光明眉な處で、出來るならば一人殘らず、一月なりと生活して、百姓の洗禮を受けて貰ひたい。農村部は、

單なる品物を作る處ではなくして、人間を作る處でありたい。全日本の敎育者に、洗禮を施す場所であらしめたいと思ひます。これが農村文化建設の第一歩だと思つてゐます。

高橋　私もさう信じてゐます。

岸田　私は何時も食物の問題を論じますが、農村問題に就ても、農村更生は食生活の改善からと云ふ事を主張して居ます。かく云ふと直に反對の聲が出ます。「吾々は今や極度に儉約して居る。これ以上に迄節約しろと云ふのは、死ねと云ふ事だ」と、そしてその生活の改善よりも生產を增すに限ると言つて、副業奬勵多角形農業など生產增加のこと許りを考へて居られます。併し先程山下先生のお話にもありましたが、單に增收のみを考へることによつて果して農村は救はれませうか。精神が正しくなければ、增收して金が溜る程生活費が向上する。それが爲めに贅澤をやつて、却つて借金がふゑる樣な結果になる。生活を改めて眞理に適ふ生活に立直すことは、算盤の上の利益は少いかも知れぬが、その魂が尊い。魂が健實になれば、自然に生產も增す、そして眞の經濟更生が出來る。或る四百戸ばかりの村で、一戸平均七百圓位の借金があつた。國、縣、村の如何なる救濟策もどんな施設も全く之を救ふ力がなかつた。今は他に頼むべき道がない。

どうか先生、本村に來て之の救はれる講演をしてくれまいかと云ふ交渉を受けました。私は相當の確信を以て、その村に行き、全村民に對し三回に亘つて徹底的に話しました。そして、この村の借金皆濟の具體案の二つの例として次の事を話しました。「この村では相當にお酒を飲んで居られるでせう。假に全村の人が酒を止めて御覽なさい、それだけでこの借金は十年か十五年になくなるでせう。非常に困難だと思はれませうが、決して出來ないことではない。現に石川縣の河合谷村の如きは、全村禁酒して、五ケ年間に四萬五千圓の學校建築費を生み出し、堂々たる學校を建てたではありませぬか。外にも全村禁酒の村が全國に七十餘村もある。眞劍になれば必ず出來るのであります。此村では一年に一萬三千圓の酒を飲まれると聞きますが、十年すれば十三萬圓、利子共に二十萬圓。全村二十八萬圓の借金も十二三年にして必ず全部なくなるのであります。

今一つの案は、全村の人が白米食を玄米食に改めることであります。これは禁酒以上に金の殘る方法であります。第一に飲食費が夥しく減る、次に病氣がうんと減る。一體今日貧乏だ、貧乏だと云つて居るが、一番大きな原因は病氣であります。そして病氣をなくする根本は、白米飯を止めて玄米飯にすることであるから、玄米常食は經濟更生の本であると信ずるのであります」

と、私は確信を以て語つたのであります。

加藤　既に時間が參りましたが、衣食住の問題に關聯しまして農産加工につき、永野先生にお話を願ひたいと思ひます。

永野　我國に於ける農家一戸あたりの耕地面積は、一町六畝といふことになつてゐるやうに、農林省の統計で拜見してをります。殊に德島縣の如きは、一戸當りの耕地が五反五畝といふことになつてゐます。この一定の土地から生産物をあげるのには、御承知の効用遞減率に隨ひまして、大きな機械を以てするといつてやうな大農化は困難であります。そこでどうしても農産加工といつたものを、取入れなければならないと思ひます。

それは二つの意味からです。一つは、どうしても日本の小農をよくするには、經濟的價値を高めること、もう一つは農村に娯樂といつたものを取入れるための加工であります。一體加工と申しましても、販賣を目的にする加工も、自給自足を目的にするものもあるわけですが、山下先生のおつしやる綜合的自給自足といつたことが、大變私の平素から考へてをつたことゝ一致するのであります。

自給自足の農産加工といひましても、無論お話のやうな、村とか部落とかを單位としたものでなければ、子供の遊戯といつたことになつてしまふのではないかと思ひます、この前山下先生のお宅に伺ひました折、生活のためにはどうしても同人クラブがいい、それには七人がいいといふお話に共鳴したしましたが、農産加工の方も、七人位のクラブを作つて段々やらせ、七人で出來ないものがあつたら、更に部落的にするといつたやうな行き方で、味噌をつくるとか、醤油をつくるとか、共同でお茶をつくる、簡單な鑑詰をつくる、ソースも、トマトケチヤツプもジヤムも、ハムもといつた具合に進めたらと思ひます。

加藤　同人クラブが、本當の生活組合となるとき、さうした理想は直ちに實行出來ると思ひます。生産本位の生活態度から脱して、生活本位に轉ずるときこそ、日本の農村に、眞實の農村文化が建設されるときであると伺ひまして、心強く存じました。御遠方から、わざ〳〵御出席下さいました三先生に、重ねて御禮申上げます。ではこれ位で。

（昭和十一年二月二十八日　於佐藤新興生活館）

農村文化の建設
定價一部十五錢

著者　山下信義
發行者　濱田壽一　東京市中野區本町通五ノ一
印刷者　安藤斯郎　東京市豊田區三崎町二ノ四
一匡印刷所印行

新興生活叢書
第三輯

昭和十一年五月十日印刷
昭和十一年五月廿日發行

發行所　東京市麹町區丸ノ内二丁目丸ノ内ビルヂング四六〇區　財團法人佐藤新興生活館
振替口座東京八四二五七番
電話丸ノ内五〇九六番

佐藤新興生活館事業概要

一、創立　昭和十年三月一日

一、目的　人間生活の原理及實際を調査研究し國民の道德生活並に經濟生活の向上を圖るを以て目的とす。

一、設立資金　佐藤慶太郎氏の寄附金壹百五拾萬圓内金壹百萬圓を基本金とし他を創立諸費に充つ。

一、事業概目

一、研究に關するもの　1 實驗研究　2 資料蒐集　3 改良改善の集中及普及

二、圖書及講演に關するもの　1 圖書及雜誌の發行　2 講師の派遣　3 講演會　4 映畫教育　5 生活訓練講習會

三、實地教育に關するもの　1 陳列所の設置　2 食堂の經營　3 宿泊所の經營　4 生活訓練所の經營　5 母性講座の設置　6 兒童研究所の經營　7 模範部落の建設　8 農村文化の研究及其模型的實施

四、實行促進運動に關するもの　1 新興生活同人倶樂部の指導　2 實行事項强調運動　3 一人一研究圖の設立　4 家産造成組合の奬勵　5 公益財團設立の奬勵　6 理想鄕土建設の應援

五、個人指導に關するもの　1 生活指導　2 秀才養成

會館其他建設概要

一、本館　東京市神田區駿河臺一丁目（明治大學上の高臺）に五百三十餘坪の敷地を購入鐵筋コンクリート地下共六階建、延坪約一千坪の會館を建築し、研究室、調査室、陳列室、生活訓練所、兒童研究所、代理部、講堂、宿泊所、食堂、事務室、會議室等を設く。昭和十一年末に竣工の豫定。

一、農村部　靜岡縣田方郡國南村上澤（東海道線函南驛より西へ約半里）に約十町歩の土地を購入し、農家七戸及公會堂、托兒所、共同作業場、共同農産加工場等の共同施設を設け、農村文化の研究及其模型的實施を行はんとす。

本館役員

理事長　佐藤慶太郎
理事（常務）　山下信義
理事（常務）　岸田軒造
理事（常務）　濱田壽一
理事　渡邊竹四郎
理事　高良富子
理事　横田章
監事　田中作二

新興生活叢書

★着手の箇所明瞭・すぐ役立つ萬人必讀の生活讀本！
★第四輯以下續々刊行・同人B同人Cには毎回進呈！

第一輯　山下信義著
生活計畫

設計書なしに大建築は不可能だ。だが人々は、人生といふ大建築の場合に限つてそれをしない。人生破産者の續出するも故ある哉だ。諸君よ本書に就きて學べ！

第二輯　岸田軒造著
生活安定の鍵

現代人の最大の惱みは、生活に安定のないことだ。どうすれば不安のない生活が出來るか？本書はこの難問に對する著者一流の具體的實際的な名解答である。

第三輯　山下信義著
農村文化の建設

魅力を失ひ青春に捨てられ、年毎に窮乏への一途を辿る農村に注がれた著者の熱涙が此ノ書となつた。これは著者半生の體驗の辭だ。特に御熟讀を乞ふ所以。

本叢書は年十回内外刊行の豫定である。人間生活に關するあらゆる問題につき親切な案内者となり、又指導者たらんことを期してゐる。乞御愛讀。

新興生活叢書
定價一部十五錢（送料共）

取引	割引
五十部以上	五分引
一百部以上	一割引
五百部以上	二割引

註文

新興生活

NOVA VIVO

新興生活綱領

一新興生活は靈的更生に出發す
一新興生活は愛と犧牲と奉仕に生く
一新興生活は力を實生活の合理化に注ぐ
一新興生活は人と物と時とを活かす
一新興生活は近きより遠きに及ぼす

◇「新興生活」はまことの生活の如何なるものであるかを示します
◇「新興生活」はどうすれば愛し合つて生きられるかを敎へます。
◇「新興生活」はどうして無駄なき生活が出來るかを知らせます。
◇「新興生活」は經濟更生と共に精神更生の實際を指導します。

祖國日本に生活維新の秋が來た。「新興生活」こそは、この回天の大業に捧ぐる我等が熱血の大文字だ。悔なき生涯を捷ち得んと欲する者は來れ！

此のパンフレットの讀者には葉書にて申込次第「新興生活」の見本一部謹呈す。

同人A・年六十錢 前納者（新興生活をおくる）
同人B・年二圓 前納者（叢書と新興生活をおくる）
同人C・年十圓以上前納者（本館の各種發刊物全部寄贈）

東京市丸ノ内丸ビル六四〇番地
財團法人 佐藤新興生活館
振替口座東京一四八五七番

終